

フィリピン共和国  
農村婦人地域特産物生産加工促進計画  
長期調査員報告書

平成 8 年 1 月



国際協力事業団

フィリピン共和国農村婦人地域特産物生産加工促進計画長期調査員報告書

平成八年一月

国際  
118  
81  
ADT  
LIBRARY

農開技
JR
96-2







フィリピン共和国  
農村婦人地域特産物生産加工促進計画  
長期調査員報告書

平成 8 年 1 月

国際協力事業団



1128160(7)

## 序 文

国際協力事業団は、フィリピン共和国政府の要請を受け平成7年1月農村婦人地域特産物生産加工促進計画に関する事前調査を実施しましたが、その調査報告を踏まえ、平成7年8月1日から9月14日まで長期調査員7名を現地に派遣しました。

同調査員は、本プロジェクトの開始に必要な現地調査及びフィリピン共和国政府関係者との協議を行いました。

本報告書は、同調査員による調査結果等を取りまとめたものであり、今後、本プロジェクトの実施の検討に当たり広く活用されることを願うものです。

終わりに、この調査にご協力とご支援を頂いた内外の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

平成8年1月

国際協力事業団  
農業開発協力部  
部長 太田 信 介



写真-1

ポホール島の住居の周りには、ヤシの木やバナナ、グヤバノなど熱帯性の果樹等多くの丈の高い樹木が植え込まれている。直射日光を避け、庭には蘭などの森の奥から日陰を好む花などを多く移植してそれを暮らしに取り込んでいる。生活環境を生かして暮らしをより豊かにしようとする女性たちの姿を見ることができる。

写真-2

住居の周りで見られる蘭の花の花壇。日本の農家の庭先みたいに野菜などを植えない。見られるのは美しい花や熱帯果樹。このような樹木の葉陰は涼しい風が流れる。プタやカラバオといわれる水牛、ニワトリなど動物たちもこの木陰は楽園である。

山の奥からとってきた雑草類もこの庭に植え込まれる。特に、乳幼児がいる家庭では欠くことができない。

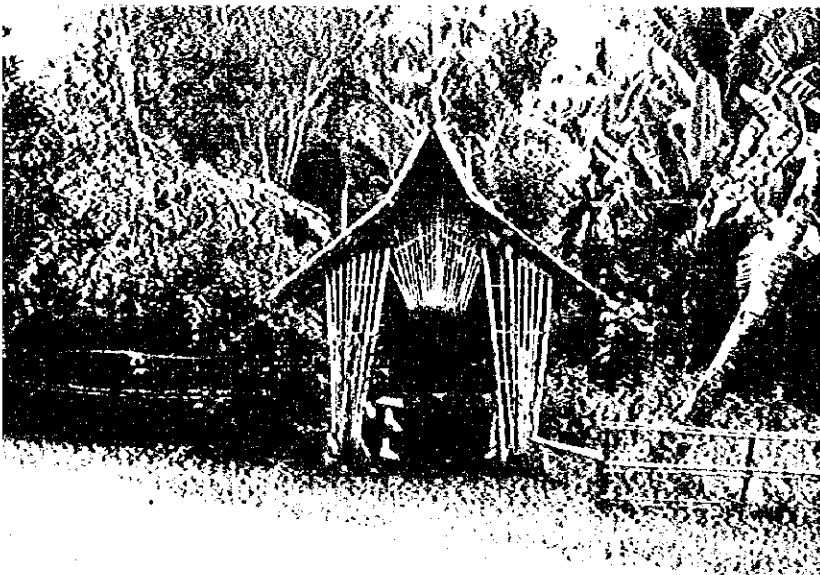


写真-3

村の中に多くのコミュニティで作ったキオスクというベンチに屋根をかけた簡単な小屋が見られる。ここに、簡単なカマドがあり、煮炊きができる。集会をするにも、農作業の休憩をするにもここがよく使われる。

学校へ通う子供たちが待ち合わせたり、日長、おしゃべりをするのもこの場所だ。



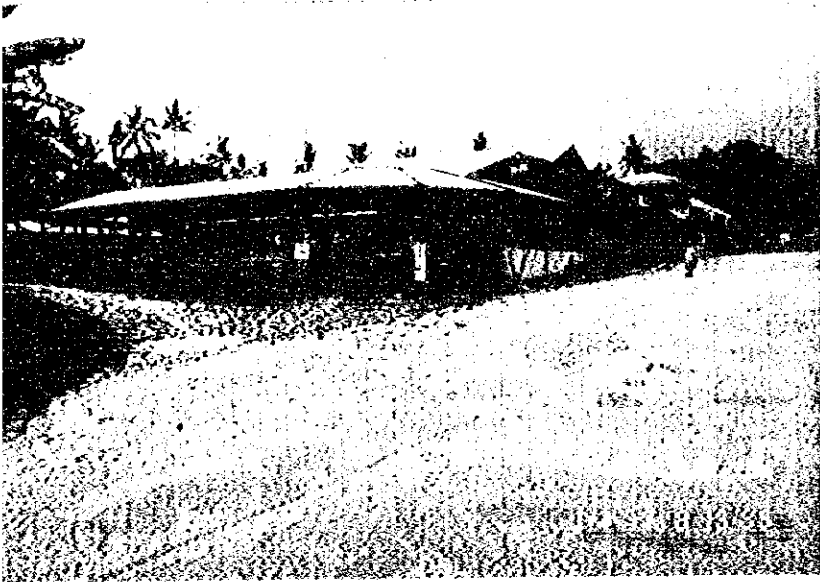


写真-4

ミュニシパリティにひとつ公設市場がある。週に1回、村の女性たちは、野菜や果物、タブリヤというチョコレートのタブレット、ボソというヤシの葉を搦んだ中にお米を入れて蒸したお弁当などをつくり、現金に換える。子供たちの学用品や衣服代、ミルク代になったりする。ここでは売る人が買う人でもある。

写真-5

売り手も女性なら買い手も女性。化粧品や小間物、プラスチック製品など工業製品を売ったり、お金になるお米や麦などは、男性が売ったりする。魚など手に入りにくいものはここに業者が売りにくる。

コーヒー豆やチョコレートを現金にするにはこの市場で換える。庭は、女性の天然の貯金箱である。



写真-6

RICは、農村改善クラブ。その会員が農民生活協同組合を運営している。週に1回の市が開かれる日に、この生協の店も開店する。食用油や米や麦といった穀物もここで売られる。なかなか手には入りにくい品物は、生協を使うと手に入るという。

ここで簡単な食事もできる。社会福祉開発省から無利子の資本をもとにこれを運営している。



写真-7

RICの村での総会があった。大事な取り決めもここで行われるが、メンバーの関心が高いのは、この日に行われる頼母子講だ。現金を融通しあうのもこれらの社会組織の大きな役割である。ちょっとした現金が必要なときにこうした社会システムが大きな役割を果たす。会計係りは、重要な仕事だ。

写真-8

今回の長期調査では、プロジェクト・サイクル・マネージメント (PCM) による住民参加型の方式が集落レベルから採用された。集落で行われたワークショップは RIC メンバーと男性を含めた RIC メンバー以外と若い女性が中心になった RIC 非メンバーのものだ。こうした下からの積み上げによりマニラの ATI レベルまで PCM が連続して行われた。

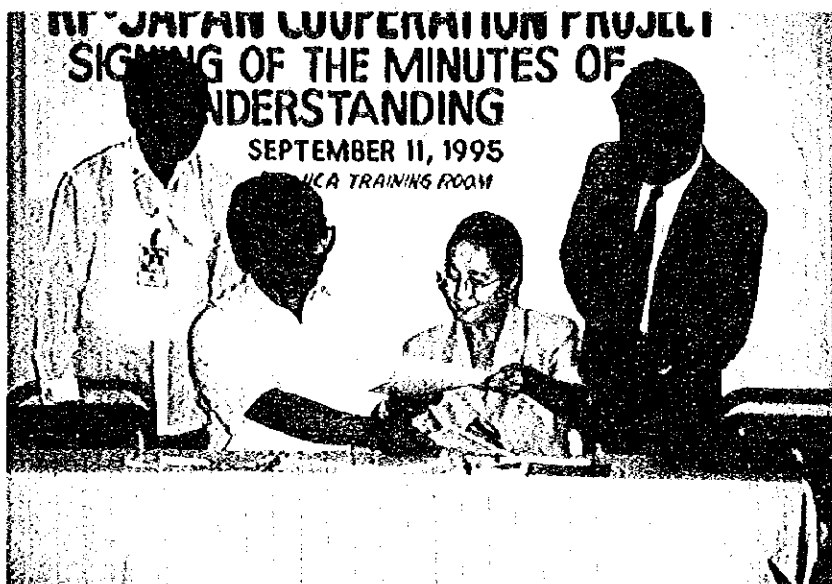
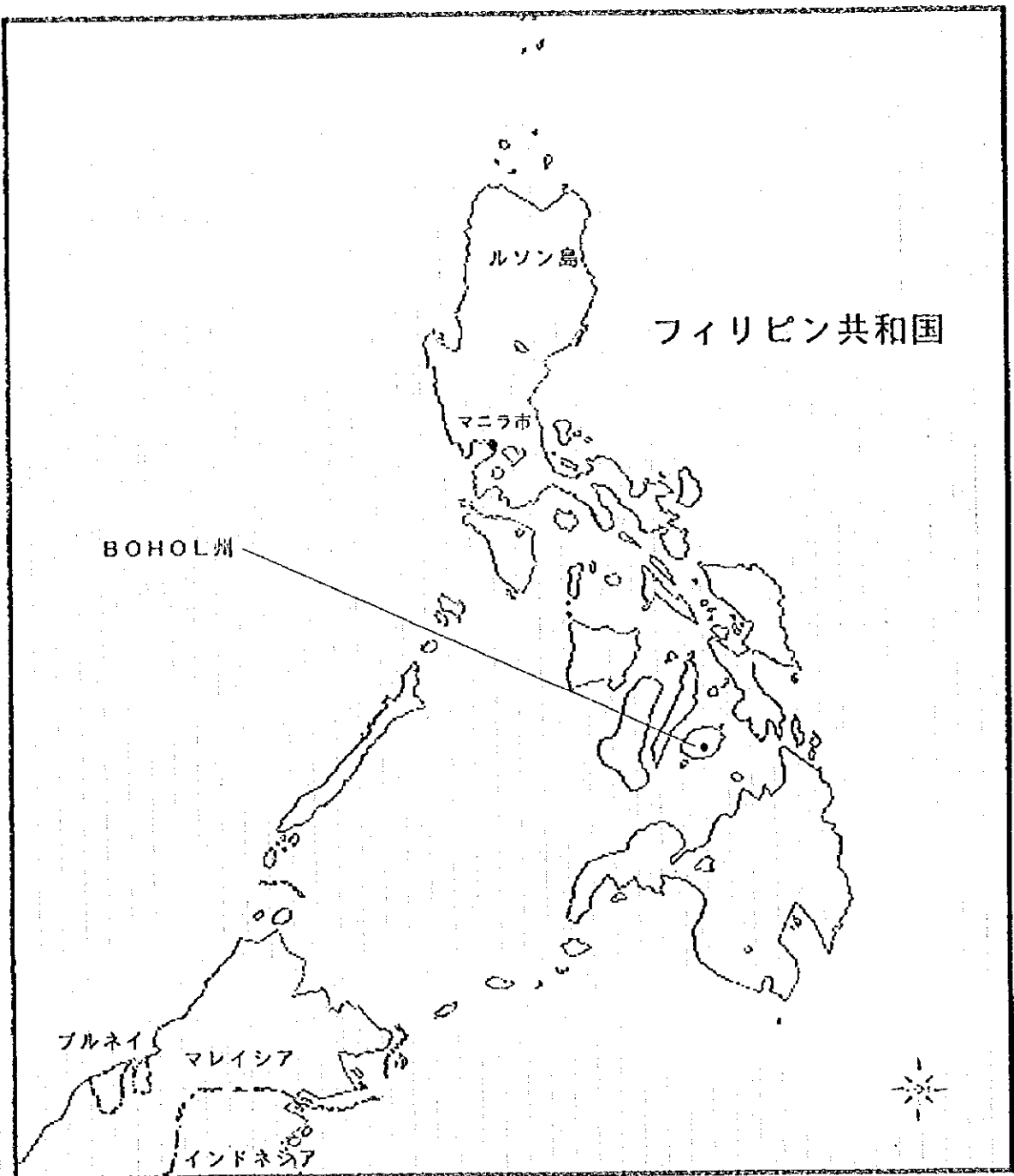


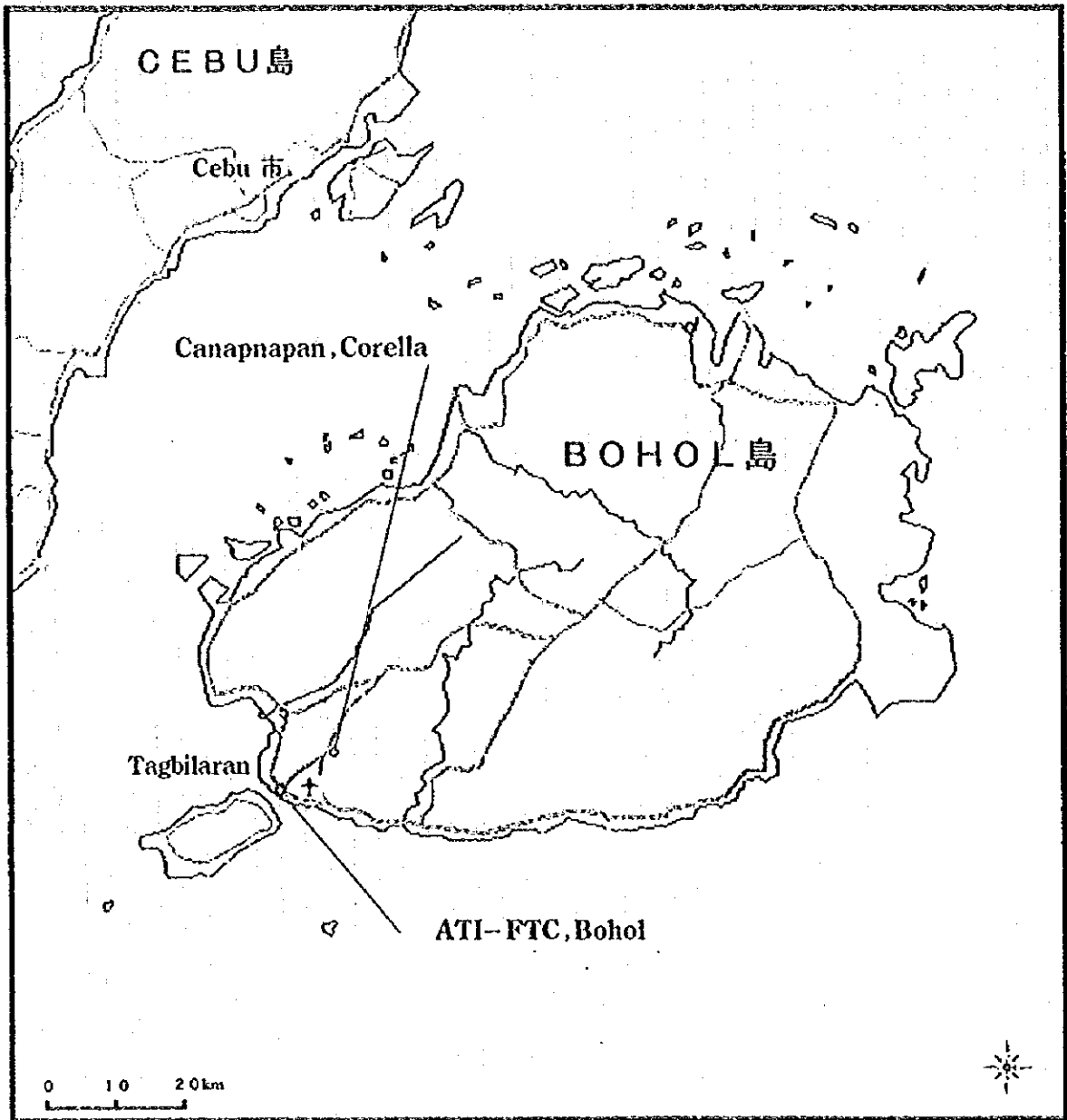
写真-9

調査と PCM によってフィリピン側と日本側の共同チームにより、プロジェクトの内容がより具体的に示され、どのようにプロジェクトを実施するかの内容案が固まり、今城調査団長とカランドン ATI 所長との間でミニッツが調印された。





# BOHOLフィールド調査位置図



## 執 筆 分 担

本報告書は、長期調査員により以下のように分担して執筆されたものである。

今城 裕子（総括） 農林水産省農林水産研修所 生活技術研修館 館長	2-1	総 括
堀家 欣子（普及）	3-2-1	農村生活改善・普及
(財) 農山漁家生活改善研究会 理 事	5-1	農村生活改善分野からの提言
富田祥之亮（研修）	3-2-2	生活資源カタログ調査
(財) 農村生活総合研究センター	3-3	ATI の研修
調査役・主任研究員	5-2	生活資源調査からの提言
	補論 2	生活資源カタログを使用した PCM Workshop の持ち方
原口 孝子（PCM手法）	3-4	PCM ワークショップ
グローバルリンクマネジメント(株) プロジェクトマネージャー	補論 1	農村調査における参加型計画手法の利用に関 する考察
	補論 3	本プロジェクトにおける今後の PCM 活用の 可能性
板垣 啓子（地域社会開発）	3-1	調査対象地域の概況及び開発計画
国際協力事業団農業開発協力部 特別囑託	3-2-3	農村組織
西垣 雅章（技術協力）	1.	長期調査の概要
国際協力事業団農業開発協力部 農業技術協力課 ジュニア専門員		
鷲見 佳高（技術協力）	2-2	調査・協議結果の要約
国際協力事業団農業開発協力部	4-2	プロジェクトのフレームワーク
農業技術協力課 課長代理	4-3	日本の協力について



# 目 次

序 文  
写 真  
地 図  
執筆分担

1. 長期調査の概要 .....	1
1-1 派遣の経緯と目的 .....	1
1-2 調査員の構成 .....	1
1-3 調査日程 .....	2
1-4 調査手法 .....	3
1-5 主要面会者 .....	3
2. 総括と調査の要約 .....	6
2-1 総 括 .....	6
2-2 調査・協議結果の要約 .....	10
3. 調査結果 .....	12
3-1 調査対象地域の概況及び開発計画 .....	12
3-1-1 調査対象地域の概要 .....	12
3-1-2 農業の概況と開発計画 .....	14
3-1-3 開 発 計 画 .....	16
3-2 農村生活改善 .....	20
3-2-1 農村生活改善・普及 .....	20
3-2-2 生活資源カタログ調査 .....	30
3-2-3 農 村 組 織 .....	53
3-3 ATIの研修 .....	56
3-4 PCMワークショップ .....	66
3-4-1 国内準備ワークショップ .....	68
3-4-2 村落レベルでのワークショップ .....	71
3-4-3 町レベルでのワークショップ .....	79

3-4-4	農業研修局ボホール研修センターでのワークショップ	85
4.	協議結果	118
4-1	農業研修局でのワークショップ	118
4-2	プロジェクトのフレームワーク	147
4-3	日本の協力について	148
5.	提言	150
5-1	農村生活改善分野からの提言	150
5-2	生活資源調査からの提言	155
付 属 資 料		
1)	議事録(ミニッツ)	159
2)	補論1 農村調査におけるPCM参加型計画手法の利用に関する考察	170
3)	補論2 生活資源カタログを使用したPCM Workshopの持ち方	175
4)	補論3 本プロジェクトにおける今後のPCM活用の可能性	178



# 1. 長期調査の概要

## 1-1 派遣の経緯と目的

フィリピンでは、農業はGNPの30パーセント、輸出高の3分の1以上を占める重要な産業であるが、農民の生活レベルは低い。総人口の3分の2は農村部に居住しており、直接・間接的に農業に関わっている。そのうち農村女性は全農業労働力の4分の1を占め、家庭内の労働のみならず、あらゆる農業生産活動に従事している。かかる現状に鑑み、近年、普及の分野においてもジェンダー（社会的性差）の観点を取り入れられ、農村女性の開発組織の育成などが重要な要素として考慮されてきている。この観点を背景にフィリピン政府は、農村女性のための地域特産物の生産及び加工に関するプロジェクト方式技術協力(Promotion Plan of Location-Specific Production and Processing for Women in Development)をわが国に要請してきた。これを受け、国際協力事業団農業技術協力課では、94年半ばより事前調査団派遣に向けた農水省との勉強会を開催し、各省会議を経て95年1月に事前調査団を派遣した。

本プロジェクトは、女性に焦点を当てた人的資源開発を通じて、フィリピン国の農村地域の生活向上に資することを目的として検討されてきた。具体的には、農業研修局(ATI)の各地の研修センターが拠点となり、農村の女性グループに対して農産加工原料栽培技術及び生活改善技術等の研修を行うとともに、普及活動の実践に際してグループの活動の強化や組織化の促進の為の手法の改善を行うことである。

本件のような参加型、及び社会開発の側面をもつプロジェクトは、関係者の共通理解を得ることが極めて重要であるため、共通の手法を使ってニーズ分析やプロジェクトの目的分析を行うことが不可欠であると考えられた。このため、今回の長期調査では、協力計画策定に必要な補足情報を収集し、異なる行政レベルの関係者間での共通認識を確立した上で、実施計画案策定に向けてフィリピン側と協議を行った。

## 1-2 調査員の構成

担 当	氏 名	所 属
1) 総 括	今城 裕子	農林水産省農林水産研修所生活技術研修館館長
2) 普 及	堀家 欣子	社団法人農山漁家生活改善研究会理事
3) 研 修	富田祥之亮	社団法人農村生活総合研究センター 調査役・主任研究員
4) PCM手法	原口 孝子	グローバルリンクマネジメント株式会社 プロジェクトマネージャー

- 5) 地域社会開発 板垣 啓子 国際協力事業団農業開発協力部  
特別囑託
- 6) 技術協力 西垣 雅章 国際協力事業団農業開発協力部農業技術協力課  
ジュニア専門員
- 7) 技術協力 鷺見 佳高 国際協力事業団農業開発協力部農業技術協力課  
課長代理

1-3 調査日程 1995年8月1日(火)～9月14日(木):45日間

日 順	月 日	曜 日	業 務 内 容 (案)
1	8月1日	火	往 路 東京→マニラ
2～4	8月2日～4日	水～金	日本大使館、JICA事務所、国家経済開発庁(NEDA)表敬、 農業研修局(ATI)との日程等打合せ
5～6	8月5日～6日	土～日	団内打ち合わせ
7～8	8月7日～8日	月～火	ATIとの打合せ、調査目的及びPCM手法の説明 農業省表敬、他の援助機関からの情報収集
9	8月9日	水	移 動 マニラ→サイト
10～14	8月10日～14日	木～月	村落住民による問題分析(PCMワークショップ) 村落住民の生産・生計実態及び地域農業に関する調査
15～18	8月15日～18日	火～金	自治体普及員等による問題・活動目的分析(PCMワークショップ) 普及システム・内容及び地域概況に関する情報収集
19～20	8月19日～20日	土～日	村落・自治体での調査・ワークショップ結果の取りまとめ
21～23	8月21日～23日	月～水	ATI研修センタースタッフとの問題・活動目的分析(PCMワークショップ) 研修企画・実施に関する詳細情報収集
24	8月24日	木	移 動 サイト→マニラ
25	8月25日	金	フィールド調査結果のプレゼンテーション ATI本部スタッフとの参加者分析(PCMワークショップ)
26～27	8月26日～27日	土～日	資料整理、団内打ち合わせ
28～31	8月28日～31日	月～木	ATI本部スタッフとの問題・活動目的分析(PCMワークショップ) PDM作成・プロジェクトルーム案の整理
32	9月1日	金	調査結果の取りまとめ、共同調査報告書作成
33～34	9月2日～3日	土～日	我が方協力の素案づくりのための団内打ち合わせ
35	9月4日	月	PDMに基づく詳細活動案の検討
36	9月5日	火	共同調査報告書の発表と大枠の検討
37～39	9月6日～8日	水～金	我が方協力案策定のための協議、ミニッツ案作成
40～41	9月9日～10日	土～日	資料整理
42	9月11日	月	ミニッツ署名(セレモニー) NEDA、JICA事務所、大使館への報告
43	9月12日	火	調査結果の整理、JICA事務所打合せ
44	9月13日	水	調査結果の整理
45	9月14日	木	帰 路 マニラ→東京

#### 1-4 調査手法

今回の長期調査で必要な情報の収集、問題把握、目的分析、相手側実施機関の体制改善の必要性の検討は終えるものとし、その方法としてPCM手法を用いた。具体的には、農業省ATIの中央レベル及びATIの地方センターレベル（ボホール州FTC）、地方自治体の普及員レベル（コレリア町）、村レベル（カナプナパン村）と複数のレベルを対象にして目的分析のワークショップを行うことでプロジェクトのフレームワークを整理し、目的・目標の設定、活動計画案の策定、そのために必要な体制造りの検討を先方関係者の参加の下で行った。また、ATIの地方レベル及び中央レベルにおいては、PCM手法による調査と各調査員の調査結果を合わせた総合的な判断に基づいて、プロジェクト実施計画策定のための検討・協議を行った。

出発前の団員打ち合わせの際、PCM手法の理解を得ると同時にこれまでに得られた情報の整理を兼ねて、本プロジェクトに関する仮の目的系図を作成するための準備ワークショップを行った。

PCMワークショップのスケジュールは以下のとおり。

	場 所	参加者	ワークショップの狙い	アウトプット
第1回	ボホール州 コレリア町 カナプナパン村	村落住民（RICメンバー、非RICメンバーの女性、男性）	カナプナパンの村落住民（女性）が抱える生活改善ニーズの把握	問題分析
第2回	コレリア町 ミュニシパル ホール	農業事務所長 普及員 保健衛生員 NGO代表者	地域の問題や普及活動における問題点の把握	問題分析 目的分析
第3回	ボホール 農民研修センター	ボホールFTCスタッフ ATI本部スタッフ	普及員や村人を対象とした研修の企画・実施に係る問題点の把握と検討	問題分析 目的分析
第4回	ATI本部	ATI本部スタッフ ボホールFTCスタッフ	上記レベルでの問題点の整理とプロジェクトフレームの策定	問題分析 目的分析 代替案選択 PDM作成

#### 1-5 主要面会者

国家経済開発庁 National Economic and Development Authority (NEDA)

Ms. Aleli Bernardo (Chief of Economic Division, Specialist)

農 業 省 Department of Agriculture (DA)

Dr. Manuel M. Lantín (Undersecretary Research, Training and Field Operations)

Ms. Cecilia Q. Asstilla (Development Management Officer, International Agricultural

Development Cooperation Coordinating Officer-Project

Packaging Group (IADCCO-PPG)

農業研修局 Agriculture Training Institute (ATI)

Dr. Horacio Carandang (Director)

Mr. Alberto B. Maningding (Director III)

Mr. Guilarido C. Baes (Officer-In-Charge, Specialist Services Division)

Ms. Patricia Jimenez (Senior Agriculturist, Specialist Services Division)

Ms. Athena Agape (Information Officer, Extension and Communications Division)

Ms. Edarlina M. Perdido (Senior Agriculturist, Specialist Services Division)

Ms. Luzviminda Razon (Planning Officer III, Planning Monitoring and Evaluation Division)

Ms. Naomi Orocio (Planning Officer I, Planning Monitoring and Evaluation Division)

Ms. Edena Sayson (Economist I, Planning Monitoring and Evaluation Division)

Ms. Marissa O. Galgo (Sociologist I, Planning Monitoring and Evaluation Division)

Mr. Placido Zinampan (Senior Agriculturist, Specialist Services Division)

オーストラリア大使館 (Australian Agency for International Development)

Mr. Matt Shepherdson (First Secretary, Development Co-operation)

Mr. Baul Gonzalez (Program Coordinator-PACAP, Development Co-operation)

ボホール農民研修センター Farmer's Training Center, Bohol (FTC)

Ms. Carolyn May O. Daquio (Training Center Superintendent II)

Mr. Precioso A. Patindol (Training Specialist III)

Mr. Lourdino B. Sale (Artist Illustrator)

Ms. Artemia A. Gotardo (Agriculturist II)

Ms. Graciana B. Fementira (Senior Agriculturist)

Mr. Jorge Fat Trinidad (Dormitory Manager / Accountant)

Ms. Marietta R. Mission (Administrative Officer)

ボホール農業振興センター Bohol Agricultural Promotion Center (BAPC)

Mr. Ricardo D. Oblena (Project Manager)

ボホール州研修諮問委員会 Provincial Training Advisory Council (PTAC)

Mr. Marcial T. Lim (Chairman, City Agricultural & Fishery Council)

ボホール州農業技術機関 Provincial Technical Institute of Agriculture (PTIA)

Mr. Jose G. Labonite (Bohol Agricultural College)

ボホール州農業事務所 Provincial Agricultural Office, Bohol

Mr. Aniano F. Bondal (Provincial Agricultural Officer)

Ms. Usualda S. Trabajo (Agricultural Technologist / PMEU)

カナブナパン村 Barangay Canapnapan

Ms. Adolfa Apale (President, Rural Improvement Club)

Ms. Delfina Aguhab

Mr. Pedro Ceballos

コレリア町 Municipality of Corella

Felixia T. Mumar (Municipal Agricultural Officer, Officer-in-Charge)

Estelito N. Poliquit (Agricultural Technician)

Alvin Malanog (Agricultural Technician)

Sotera O. Toroy (RHU-Corella)

Diego T. Talisic (MAFC/BAFC Chairman)

在フィリピン日本大使館

山内 勝彦 (一等書記官)

JICA フィリピン事務所

力石 寿朗 (次 長)

宿野部雅美 (職 員)

井上 鈴鹿 (職 員)

日本人専門家

加藤 成一 (農業省農業研修局：ATI)

高階 康博 (農業省農業研修局：ATI)

下方 芳美 (農業省農業研究局：BAR)

井口 尚樹 (ボホール農業開発計画)

## 2. 総括と調査の要約

### 2-1 総括

#### 2-1-1 はじめに

生活技術の研修を担当する部門の人間として、フィリピンの研修組織の実態を知り、彼国の研修機関の担当者達との議論に参加させて頂いたことは大変有意義なものであった。ここに感謝の意を表したい。

本調査全体は、40日間にわたる長期的なものであったが、総括としての私の役割は、プロジェクトサイトの候補地をはじめとする現地踏査等の結果にもとづき、二国間のプロジェクトの枠組みの方向性を決めるミニッツを作成し、それへの署名を行うというものであった。

私がフィリピンに到着したときには、現地踏査等は、既に終了しており、私は、残念ながら、会議場である ATI の建物とホテルを往復しただけであった。現地調査等の詳細については各調査員の報告の通りであるが、ここではミニッツの作成に当たり、農業省や ATI 本部の関係者との議論を通じて感じたこと、今後の課題となりそうな点などを中心に報告したい。

#### 2-1-2 タイトル(案)について

- (1) 本プロジェクトは、女性に焦点を当てた人的資源開発を通じて、フィリピンの農村地域の生活向上に資することを目標として検討されてきた。

当初のタイトル(仮称)は「PROMOTION PLAN OF LOCATION-SPECIFIC PRODUCTION AND PROCESSING FOR WOMEN IN DEVELOPMENT (農村婦人地域特産物生産加工促進計画)」であったが、これは、本プロジェクトの本質を明確に表していないとのことで、変更する必要が生じた。まず、議論の対象となったのは、「女性(婦人)」「地域特産物」「生産加工」と言う3つの言葉であった。

- (2) わが国の農家、農村においては生活の担い手はほとんどが女性である。にもかかわらず、女性の意見が生活の運営、農村の環境維持等を図る上で取り上げられないようなケースが見られることも多く、女性の意識の向上、地位の向上は、農家農村の生活の向上につながるという意識が強い。

しかしながら、フィリピンにおいては、公的な意思決定機関にも女性が参画するなど、女性が前面に出て活躍する機会がかなり多い。そして、それは、農村部においても同様であるとのことであった。つまり、女性が農作物に労働力として携わるだけでなく、自ら考え、主体となって農業を行っている場合が多く、その地位については必ずしも低いものではないということである。

従って、農村地域の生活を向上させることは、女性の意識啓発や地位の向上とイコール

ではなく、このプロジェクトの対象を女性に限定する必要はないとの意見が出た。確かに、生活を担うものは、男性、女性、青少年、高齢者をとわず、地域住民全体である。タイトルに、プロジェクトの活動の対象の一部分だけを書き込むのは適切ではないと認識した。

- (3) ついで、フィリピン側から、「生活の向上とは、経済的な向上が中心であり、地域特産物の生産加工を通じ、地域の経済的振興を図ることが本プロジェクトの中心的課題である」との意見が出た。

しかしながら、本プロジェクトの中心的課題である生活の向上とは、農村の人々の健康の増進、労働の改善、農家経営の向上、住居環境の改善等が中心であって、経済の向上はこれを達成するための手段の一部にしか過ぎない。したがって、タイトルに、「地域特産物の生産加工」という、経済的な向上の中のさらに狭い概念の言葉を入れることは適切でないと思われた。むしろ、「生活の向上」という重要な概念がタイトルにないことが気になった。

そこで、本プロジェクトの性格を最もよく表す「生活の向上」という概念をいかに表現するかについても慎重に議論した。「HOME LIFE」なのか「RURAL LIFE」なのか、あるいは、「DEVELOPMENT」なのか、「IMPROVEMENT」なのか。「HOME LIFE」というと、女性に直接関わる、女性の視点が入っている、とすぐに理解できるが、本プロジェクトでいう生活とは、必ずしも家庭の中だけに限られるものではないことから、「RURAL LIFE」を用いるよう提案し、また、英語の感覚では、「DEVELOPMENT」は、ゼロからの開発というイメージが強いと言うことであつたので、現状をよくしていくと言う意味で、「IMPROVEMENT」を用いることとした。

- (4) さらに本プロジェクトは、特定の地域の生活向上を図ることが目的ではなく、その地域の足がかりとして、ATIを中心とする研修機関の研修サービスをより高度化することを目的としているものであることから、地域振興の促進ともとれるタイトルは不適切であると判断し、「研修」という言葉をいれるよう提案した。

- (5) その結果、本プロジェクトのタイトル案から、「女性」及び「地域特産生産加工」という言葉を落とし、「TRAINING SERVICES ENHANCEMENT PROGRAM FOR RURAL LIFE IMPROVEMENT」とすることで、フィリピン側との合意を見た。

### 2-1-3 上位目標について

タイトル案では、生活の担い手が女性だけではないことを明確にするため、あえて「女性」という言葉を使用しなかったが、本プロジェクトは「WID」プロジェクトの一環であることから、女性の意向が取り上げられ、女性の生活が向上しなければ当初の目標が達成されたいはいえない。

そこで、上位目標を、「IMPROVEMENT OF THE QUALITY OF LIFE THROUGH EFFORTS

FOR HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT IN THE RURAL AREAS, WITH SPECIAL REFERENCE TO WOMEN'S PARTICIPATION (女性の参画に特に配慮して、農村地域の人的資源開発の努力を通じた生活の質の向上をはかること)」とし、プロジェクトにおける女性の重要性を強調することとした。

#### 2-1-4 プロジェクト目標について

プロジェクト目標については、「FARMERS, FISHERFORK, WOMEN, YOUTH AND EXTENSION AGENTS ARE PROVIDED EFFICIENT AND EFFECTIVE TRAINING SERVICES FROM ATI THROUGH PARTICIPATORY APPROACH (農民、漁民、女性、青少年及び普及員が参加型アプローチを通してATIより質の高い十分なサービスを受ける)」としたが、その際、このプロジェクトは、漁家を対象と出来るのか否かとの議論があった。

これが、生産関係のプロジェクトであれば、確かに、漁業生産については対応できないかもしれないが、これは生活に関するプロジェクトである。しかも、地域生活全体を向上しようとするものであるので、住民全体を視野に置かなければならない。加えて、我が国の生活技術に関するスペシャリストは、漁家をも対象として活動しており、技術的にも十分に協力できると思われる。従って、漁民も対象の範中に入れることとした。

#### 2-1-5 成果、活動及び投入について

PDMの作成に当たって最も議論を要したのは成果、活動及び投入の内容の決定であり、特に、投入については、私が議論に参加した時点では全く検討されていなかった。ミニッツの協議をする時間は限られているので、直ちにPCMの手法を用いて、6つの成果別に、必要な人員、機材、資金(ヒト、モノ、カネ)のリストアップを行った。短時間で、しかももれないように意見を取りまとめるには、当該手法は大変効果的であると思われた。

#### 2-1-6 全体プロジェクトとジョイントプロジェクトについて

今回作成したPDMは、フィリピンの研修機関全体の見直し、質的向上につながる、広域なものであり、これをフィリピン独自で実施するプロジェクトと日本の協力で実施するプロジェクト(ミニッツのなかでは、ジョイントプロジェクトと称した。)に仕分けることも大きな作業の一つであった。

さらに、ジョイントプロジェクトの中でも、日本による協力、援助の範囲を特定することに、多くの時間がさかれた。

まず、ジョイントプロジェクトは、実施期間に5か年という制約があるので、PDMの成果の中で、最初の5年で達成できるもの、あるいは、優先的に達成しなければならないものを選定した。当然のことながら、フィリピン側で、人的にも、資金の面でも、施設設備の面でも十分な準備が可能なものに限られる。

その結果、6つの成果のうち、「農村生活に関するデータバンクの設置、更新」、「調査結



果の入手、伝達、活用」、「研修効果の高度化」についてまず達成し、併行して、「ATIとNGOや自治体との連携の強化」にも一部着手することとし、これをジョイントプロジェクトの範囲とすることとした。

さらに、ジョイントプロジェクトは、今回のPDM全体を含む総合的なプロジェクトの一部であり、ジョイントの部分が終了した途端に、その他の部分を破棄したりすることのないよう、厳に申し入れ、プロジェクト全体の進行スケジュールにつき提案を求めたところ、フィリピン側からは、12年間で本プロジェクトの全体を終了させるとの返答があった。

ついで、日本が協力する範囲の特定作業にかかった。

最も議論されたのは、日本から派遣すべき人材についてであった。但し、これは、いかにフィリピン側の要請が強くても、日本側に適切な人材が用意されなければ協力は不可能である。今後、広範にわたる派遣可能専門家のリストを作成する必要があると思われる。

今回は、実際に専門家を派遣できるかできないかはともかく、とりあえず、PDMの活動のうち、「農村生活のデータ収集のための参加型システムの設置」「農村生活のデータに関する研究」「研修のモニタリング、評価システムの強化」「特定地域における研修調査等の実施」「農村生活改善のための研修プログラムの作成」に関しては、日本側の協力の範囲とすることで合意した。

#### 2-1-7 プロジェクトサイトについて

プロジェクトサイトは、本プロジェクトの趣旨からみて、ATIが中心となるが、ATIでの研修理論等を試行し、実践するための現場も必要である。事前調査においては、3箇所の地域を候補地として実態調査など行ったが、今回の調査では、ボホール1箇所に絞り、現地調査を行った。

フィリピン側は、現地の振興等を中心に据えており、当初は、複数箇所の現場をプロジェクトサイトとすることを望んでいるようだったが、本プロジェクトにおける現地は、あくまでもパイロット地域である。ここで試験的に実施した研修理論、研修手法等をフィリピン国内の各地域に普及するのは、本プロジェクト内で行うべきものではなく、フィリピンの自助努力に寄るべきものと考え、私たちとしては、1箇所に絞るよう主張した。

また、ボホール州には、以前にもJICAプロジェクトが入っており、地区に集中し過ぎるのではないかと意見もあったが、生活関連のプロジェクトは、ある程度経済的に恵まれた地域でなければ、生活者としての真の要望、生活改善のあるべき姿等が浮かび上がらないと思われた。

以上の事から現場としてのプロジェクトのパイロット・サイトは、ボホールが最も適切であるという点で合意を見た。

## 2-1-8 その他

一口に、生活改善と言っても、生活という言葉のもつ意味は大変広く、そのどこの部分を改善する必要があるのかは、国により、地域によって様々であることは言うまでもない。しかし、このプロジェクトの目指すものの一つとして、豊かで、潤いのある、かつゆとりのある生活の実現が上げられると思う。

日本では、最近になってようやく、モノの時代が終わり、ココロの時代に入ったと言われるが、その日本においてさえ、ちょっと油断をすると、経済優先、モノ優先という傾向となりがちである。そして、これに歯止めを掛けることができるのは、優秀な生活者に他ならない。

生活改善を扱う本プロジェクトの評価については、今後、様々な議論がなされると思う。しかし、少なくとも、本プロジェクトを通じ、フィリピンの各地域に、現実を直視し今後の生活向上の方向を打ちだして行けるような、優秀な生活者が多く育成されることを願っている。

## 2-2 調査・協議結果の要約

調査を行った全レベル（本邦事前準備、ボホール州の村落・町・農業省農業研修局(ATI)農民研修センター、ATI本部）においてPCM手法を導入し、参加型計画ワークショップを実施した。これらのワークショップ結果及び他の調査結果をATI本部にてPCM参加型計画ワークショップを開催して整理・分析するとともに、プロジェクト・フレームワーク案が策定され、続く協議の原案として用いられた。協議の結果、合意の得られた事項はミニッツ（付属資料1）に取りまとめられた。ミニッツの概要は以下のとおり。

### (1) 調査の背景と目的

事前調査結果をベースにPCM手法を用いて行う長期調査の主な目的、調査手順について説明した。

(2) 各レベルでのプロジェクト OUTPUT

The Project (全体計画)	The Joint Project (5ヶ年-日本-フィリピン協力)	Japanese Technical Cooperation (日本側協力範囲)
1. NGO及び地方自治体との連携強化	1. NGO及び地方自治体との連携強化	
2. 農村生活に関するデータベースが整備・活用される。	2. 農村生活に関するデータベースが整備・活用される。	2. 農村生活に関するデータベースが整備・活用される。
3. 試験研究の成果が、十分に研修に反映される。	3. 試験研究の成果が、十分に研修に反映される。	
4. (ジェンダー配慮も含め) 実施されている研修の効果が高まる。	4. (ジェンダー配慮も含め) 実施されている研修の効果が高まる。	4. (ジェンダー配慮も含め) 実施されている研修の効果が高まる。
5. ATIの入材の知識、技能が向上され、より職務姿勢が積極的になる。		
6. 施設及び機材が開発・改善される。		

(3) フィリピン側の担当事項

a. カウンターパート、 b. 土地、建物、施設等、 c. ランニングコスト

(3) ジョイントコーディネーションコミッティー

委員会設置の目的、一般的構成等説明に基づき、次の調査団（実施協議調査団）来比時迄にフィリピン側のメンバーリストを作成するよう依頼した。

(5) プロジェクトタイトル

“ジョイントプロジェクト”のタイトルとして Training Services Enhancement Program for Rural Life Improvement「農村生活改善のための研修強化プログラム」との仮案を示した。

(6) プロジェクトサイト

ATI 本部及び ATI 地方センター 1 箇所をサイトとすることを確認し、後者についてはボホール農民研修センターが適当であるとした。

(7) 今後のスケジュール

フィリピン側は実施協議チームの早期派遣（年内）を要望、日本側としても可能な限り早期に派遣したいが、年内派遣は難しい旨説明。

(8) 相互の協議

今後にも必要に応じ協議を続けること。

### 3. 調査結果

#### 3-1 現地調査対象地域の概況及び開発計画

##### 3-1-1 調査対象地域の概要

###### (1) ボホール州概要

ボホール州は第七地域 (Region VII) の中央に位置しており、ボホール本島は73の小島に取り巻かれている。地形的にはなだらかに起伏する丘陵と低い山地が大半を占め、海岸地域や台地部にわずかに平坦地が見られる。気候は年間を通じて温暖で、降水量は比較的少ない。有名な観光地であり、地域の農業基盤産業推進拠点でもあるセブ州が北西に隣接しており、セブ経済圏へのアクセスが比較的容易であるという地理的利点に恵まれている。ボホール本島の南部に州都タグピララン市が位置し、空港、港も市内に整備されている。

行政上は1市47町1,113村から構成され、総面積411,726ヘクタールの広さに推定人口1,011,509人(1994年時点)を擁している。このうち、15歳未満人口は39%、農村人口は75%を占めている。1988年の世帯平均年収は18,881ペソと推定されており、1991年の貧困層(国家統計局の定義による月収2,852ペソ未満の世帯)の割合は54.7%に達しているが、州全体でみた識字率は93%で、就学率も表1に示される通り比較的高く、教育への関心の強さを示している。

表1：ボホール州の就学・脱落率

学校種別	就学率	脱落率
初等教育 (Elementary School)	93.07%	2.37%
中等教育 (Secondary School)	73.42%	3.57%

###### (2) 調査対象町の概要

コレリア町は州都タグピララン市から10kmの距離に隣接した内陸の自治体であり、8村落により構成されている。総面積は3,630.8241ヘクタール、約6,500人の人口(1993年時点)が1,204世帯を構成している。自治体としての格付けは最も低い6級となっている。

町の財政は93年度の歳入が約330万ペソ、歳出が約320万ペソであるが、歳入の90%は中央からの交付金 (Internal Revenue Allotment: IRA) によるものであるし、歳出についても職員給与などの経常経費が60%以上を占め、事業費は38%程度にとどまっている。

農業は町の基幹産業であり、家内手工業の主な生産品としては、竹細工、ニゴと呼ばれ

る篩籠、縄、帽子、炭、家具などが挙げられている。

町全体では初等学校が6校、中等学校が1校あり、初等教育では38人、中等教育に10人の教師が各校での指導に当たっている。町の保健所には医者、看護婦、歯科医、衛生検査官がそれぞれ1人、助産婦が2人おり、保健所での活動の他、各村落の保健センターでの巡回指導にあたっている。調査時にはボホール大学看護学科の学生がインターンシップのため保健所で働いている姿も見られた。現在、水道の普及が進められており、掘り抜き井戸も含め、町全体での安全な飲料水の入手率は90%に達している。

町道は全体で約4,300kmに及ぶが、そのうち舗装されている道は30%弱にすぎず、その他は砂利道である。州都タグピラン市に隣接していることもあり町全体での電化率は約85%に達している。

### (3) 調査村落の概要

カナプナバンは、コレリア町役場のあるボブラシオンに隣接した、面積529.66ヘクタールの村で、107世帯、人口698人(1993年時点)が7つの集落(ブロック)に居住している。村の公共施設としては村落集会所、4学年までの小学校、村落保健センターがそれぞれ1カ所あるほか、各集落ごとの簡易な茅葺きの集会所がある。

給水施設としては135フィートの深さの掘り抜き井戸が5カ所にあるが、生活用水確保のために雨水タンクを個別に設置している世帯もある。村に病院はないが、村落保健センターへの巡回指導の他、村落保健員が各集落に1名おり、健康相談、応急処置、病気の第一次診断及び町の保健所への照会などの活動を担っている。ポティカ・サ・バランガイと呼ばれる村の公認薬局(政府から薬品の支給を受け、薄利で地域住民に販売する)もあり、以前は恒常的な供給があったが、現在は経口補水塩(ORS)を除き、薬品の供給は不足している。

また、村にはサリサリ・ストアと呼ばれる小規模な日用雑貨店が5カ所にあり、石鹸、油、調味料、飲料水、菓子などを扱っているが、大半の村人にとって、これらの店は補完的であり、毎週月曜日にボブラシオンで開かれる定期市と市場周辺の常設店が日用雑貨の主たる入手源となっている。

輸送手段としてはタグピラン市から隣接のバリリハン町をつなぐバス便が利用でき、村外の学校に通う子どもたちもこれを利用している。週のうち3日は一日2回、残りの4日は一日1回という限られた運行ではあるが、村の中を抜けるルートとなっているため利用度は高い。タグピラン市から隣接のシカトゥナ町に抜ける州道路(ハイウェイと呼ばれる)からはより多くのバス便が利用できる。

村には電気が引かれており、世帯の80%程度が電化されている。燃料は主として薪炭等であるが、裕福な世帯の中には一部プロパンガスと併用しているケースも見られた。

### 3-1-2 農業の概況

#### (1) 州

ボホール州では雇用人口の69.29%（農村地域のみでは78%）が農業セクターに吸収されており、農業の重要性は極めて高い。耕地のうち灌漑地域は25%のみで、70%が天水依存地域、5%は畑地である。耕地面積の多くを占める生産物としては、ココナツ（17%）、米（16%）、コーヒー（13%）、バナナ（8%）などが挙げられており、特産物であるウビ・キナンパイを含む塊茎作物の生産は耕地面積ではわずか6%にすぎない。表2は主要作物の平均単位収量である。セブ州は域内のトウモロコシの生産拠点となっているが、ボホール州は米の生産促進地域に指定されており、州内では米の自給を達成している。ボホール島の中央及び北東部の平野は傾斜が0～15%で牧草地の条件をも備えており、州の畜産開発ポテンシャルは高い。1991年時の家畜総数は表3の通りであり、食肉については現在州内で自給されているが、鶏卵はセブ州からの輸入に未だ依存している。

州農業事務所での聞き取りによれば、米、切り花、マンゴー、キナンパイ（ウビ）、キャッサバなどの作物については今後増産していく方向であり、畜産（特に養豚）、沿岸漁業についても政策的取り組みを強化していく意向とのことであった。

表2：作物別平均単位収量  
（1 ha 当たり、1992年）

品目	平均収量
米 （灌漑地）	4.02 t
（天水低地）	2.33 t
トウモロコシ （白色種）	1.41 t
（黄色種）	1.58 t
野菜 （葉野菜）	2.11 t
（実野菜）	2.96 t
塊茎作物 （サツマイモ）	3.87 t
（キャッサバ）	14.88 t
豆類 （モンゴ豆）	0.82 t

表3：ボホール州家畜頭数  
（1991年）

品目	頭数
豚	218,335
牛	71,252
水牛	72,239
鶏	743,241
山羊	29,979

#### (2) 町

コレリア町はGPEP対象地域の指定を受けておらず、農業生産は専ら自給に向けられている。町全体で農業用地は2,757ヘクタールあり、土壌は主として粘土質である。農用地のうち、141ヘクタールは林地、274ヘクタールは牧草地として利用されている。主要農産物は米、トウモロコシ、塊茎作物、豆類、野菜、ココナツ、マンゴーなどで、畜産では養豚・養鶏など小型家畜が中心である。

表4： コレリア町主要作物平均単位収量（1993年）

	品目	ヘクタール当り 平均収量(t)
自給用 作物	米	2.0
	トウモロコシ	1.5
	塊茎作物	5.0
	豆類	1.0
	野菜	6.0
換金 作物	ココナツ	6.0
	マンゴー	3.0

### (3) 村 落

調査対象村落には灌漑設備もなく、米作は天水に依存しており、村全体でも20ヘクタール程度しか栽培されていない。主要農産物はウビ、サツマイモなどの塊茎作物、トウモロコシ、ココナツ、ピーナツ、豆、野菜（特に現地語でバトゥンと呼ばれるササゲの一種）などで、そのほか少量ではあるがカカオやコーヒーなどの換金作物も見られる。これらのうち、トウモロコシ、塊茎作物の一部、野菜などは主として自給用に生産されている。聞き取りによれば、農地改革を通じて土地配分を得た世帯はなく、村人の平均耕地所有面積は1ヘクタール程度と小規模である。

経営規模が小さいこともあり、トラクターなどの農業機械は未だ導入されていない。農薬や化学肥料などの農業投入材は個々の農家がタグピラン市の商店から購入しているが、最近では有機肥料（豚糞や鶏糞とおが屑などを混ぜたもの）の利用が奨励、普及されている。村落調査では、ウビの植え付けの際に鶏糞とおが屑の混合物によって施肥している農家も観察された。また殺虫剤や鶏の薬として身近な植物を利用することが、農業省の制作するラジオ番組などで紹介・奨励されているということで、盛んに実行されている。

農村地帯での農産物流通システムは未整備であり、農民は様々なチャネルを通じて生産物を出荷・販売している。表5は調査村落及び市場、普及員からの聞き取りなどに基づいて主な農産物の流通・販売経路をまとめたものである。なお、生産者が直接持ち込む際の輸送には公共輸送機関が利用されている。

表5：生産物別販売方法

生産物	販売方法
コプラ (生産者が乾燥させる)	市の日市場に来ている仲買人のところに生産者が持ち込む 村に仲買人が集荷に来る 決まった仲買人に生産者が連絡を取り、集荷を依頼する
ウビ	生産者が個別に市場に持ち込む 契約栽培の場合は予め決められた契約により集荷される
野菜	決まった小売店（ダ・ビ・ラン市内）に生産者が持ち込む 生産者が市の日市場に持ち込む 町の常設市場近くの路上で生産者が直販
米 (仲買人がプロセスする)	生産者が仲買人のところへ持ち込む 前貸金融の精算として貸方が耕地から集荷 共同組合を通じて出荷

### 3-1-3 開発計画

#### (1) 州

州の開発計画については、毎年開発計画が策定されるが、1995年については5月の地方選挙で知事が変わったため、8月末に関係機関を招き開発計画策定のためのワークショップが行われる予定となっており、調査時点では十分な情報が得られなかった。

1994年の開発計画において、開発の阻害要因としては(1)低生産性、(2)低所得、(3)高い失業率、(4)貧困、(5)所得配分の不公平、(6)財政不足、(7)起業化の不振、(8)人口流出等の問題が挙げられており、貧困の軽減、より生産的な雇用機会と生計活動の創出という2点が優先政策となっている。具体的には、人口増加率と貧困層世帯の割合の引き下げ、農業・サービスセクターにおける雇用の創出、自然資源の保全、州の商業活動の活性化などが目標として挙げられている。

ボホール州は、中期農業開発計画の4つのコンポーネント全ての対象地域となっている。特に穀物増産計画（GPEP）に関しては、第七地域内の米の主要供給地として位置づけられ、灌漑開発に力が入れている。ボホール灌漑開発計画とカバヤスタムによる灌漑予定面積は5,710ヘクタールで、州内では22町がGPEPの対象地域に指定されている。地域農業試験支場（ROS）であるボホール農業振興センター（APC）は、地域適応技術、特に稲作関連技術の開発普及に大きく貢献している。

主要商品作物開発計画（KCCDP）の対象品目としては、切り花、キャッサバ、マンゴー、モンゴ豆、ウビ（キナンパイ）、サツマイモなどが指定されており、展示圃場や種子・種苗生産、マーケティング支援までを含む内容で計画が策定されている。

主要畜産開発計画（KLDP）に関しては、牛、水牛など大型家畜の繁殖・肥育を優先計画とし、小家畜や養豚・養鶏推進計画なども含めると、州内の18町が対象地域として指定



されている。具体的には育種や検疫サービスの強化、販売網の改善支援などを含む内容となっている。

ボホール州の漁業は年間10万トンに及ぶ水揚げを誇り、農業に次ぐ産業として位置づけられている。水産管理開発計画（FMDP）の対象としては、沿岸部の3つの町が主要地域と定められており、汽水域でのマングローブ植林による漁場環境の整備や養殖技術の改善などを通じた支援が計画されている。

表6：ボホール州中期農業開発コンポーネント別対象地域

開発計画コンポーネント	対象品目・プログラム	指定対象地域(ムニシパリテイ)
穀物増産計画 GPEP	米	Duero, Guindulman, Lila, Alicia, Dimiao, Carmen, Inabanga, Ubay, Jagna, Candijay, Talibon, Loboc, Batuan, Pilar, Garcia-Hernandez, Marbojog, Sierra-Bullones, Mabini, Clarin, Bilar, Balencia, Tubigon
主要商品作物開発 計画 KCCDP	切り花 (目標生産面積320ha.)	全地域
	マンゴー (目標生産面積13,080ha.)	
	ジャックフルーツ (目標生産面積2,264ha.)	
	ピーナッツ	
	モンゴ豆	
主要畜産開発計画 KLDP	大型家畜育種・肥育	Loom, Tagbilaran, Nanao, Carmen, Sagbayan, Ubay
	大型家畜基点飼育農場	Alicia, Mabini, Sierra-Bullones, Ubay, Guindulman, Clarin, Trinidad
	小型家畜	Maribojog, Calape, Talibon, Jagna
	養豚・養鶏	Tagbilaran, Sikatuna, Bilar
水産管理開発計画 FMDP		Ubay, Trinidad, Bien Unido

(2) 町

調査を行ったコレリア町では、各村の村長を招き年に4回開催される町開発委員会で開発計画の策定・改訂を行っている。数年前（1980年代初頭と推定）に内務自治省の指導の下にコレリア町総合開発計画（Comprehensive Development Plan）が策定されているが、現在の開発計画（1995-1999）はセクター別の事業ベースで策定されている。事業計画を概観すると、道路や給水施設等のインフラストラクチャーに重点が置かれていること、また、資金源の大半を中央政府交付金（Internal Revenue Allotment: IRA）や州政府交付金に依存していることが特徴的である。

農業については上記総合開発計画において重要なセクターとして位置づけられており、

事業計画においては、作物多様化及びファーミング・システムの改善のため、展示圃場の設置や改良品種の種苗の配布が計画されており、1995年度についてはそれらの活動のため、総額19,000ペソの事業予算が計上されている。

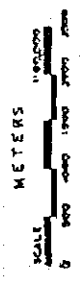
表7：コレリア町開発計画(1995-99)における農業・天然資源セクター計画

計画	対象村落	具体的内容	実施年度	予算(ペソ)	財源
作物多様化・営農強化計画					
(1)間作展示圃	町全体	1/2ha.の間作展示圃の設営	1995	5,000	IRA交付金
(2)米・トウモロコシ・ピーナツ・モンゴ豆生産強化	町全体	各作目毎に1/2ha.の展示圃を設置	1995	5,000	IRA交付金
(3)塊茎作物生産強化	カンガフン、カフナハン、サホック	1/4ha.の塊茎作物展示圃を設置	1995	2,000	IRA交付金
(4)果樹園開発	町全体	改良マンゴ-苗1万本の配布	1995-96	2,000	IRA交付金
(5)竹植林	町全体	町立種苗施設での竹の苗生産	1995-96	5,000	IRA交付金
(6)繁殖・肥育用家畜配布	町全体	豚、牛、山羊、水牛の配布	1995-96	未定	IRA交付金

### (3) 村落

村落開発計画は村議会での検討によって策定されるが、総合計画というよりは、個々の事業ベースの計画という趣が強く、開発計画の基礎となるべき村落の基礎情報についても体系的にまとめられておらず、 balanガイ・プロファイルも整備されていない。開発事業の重点は道路や集会所など公共インフラの改善に向けられており、これらの事業には中央政府、州政府、町からの交付金が充当されるが、IRAが95年度実績額で182,000ペソ、州及び町からの交付金はそれぞれ1,000ペソ程度であるため、規模としては極めて小さなものになっている。

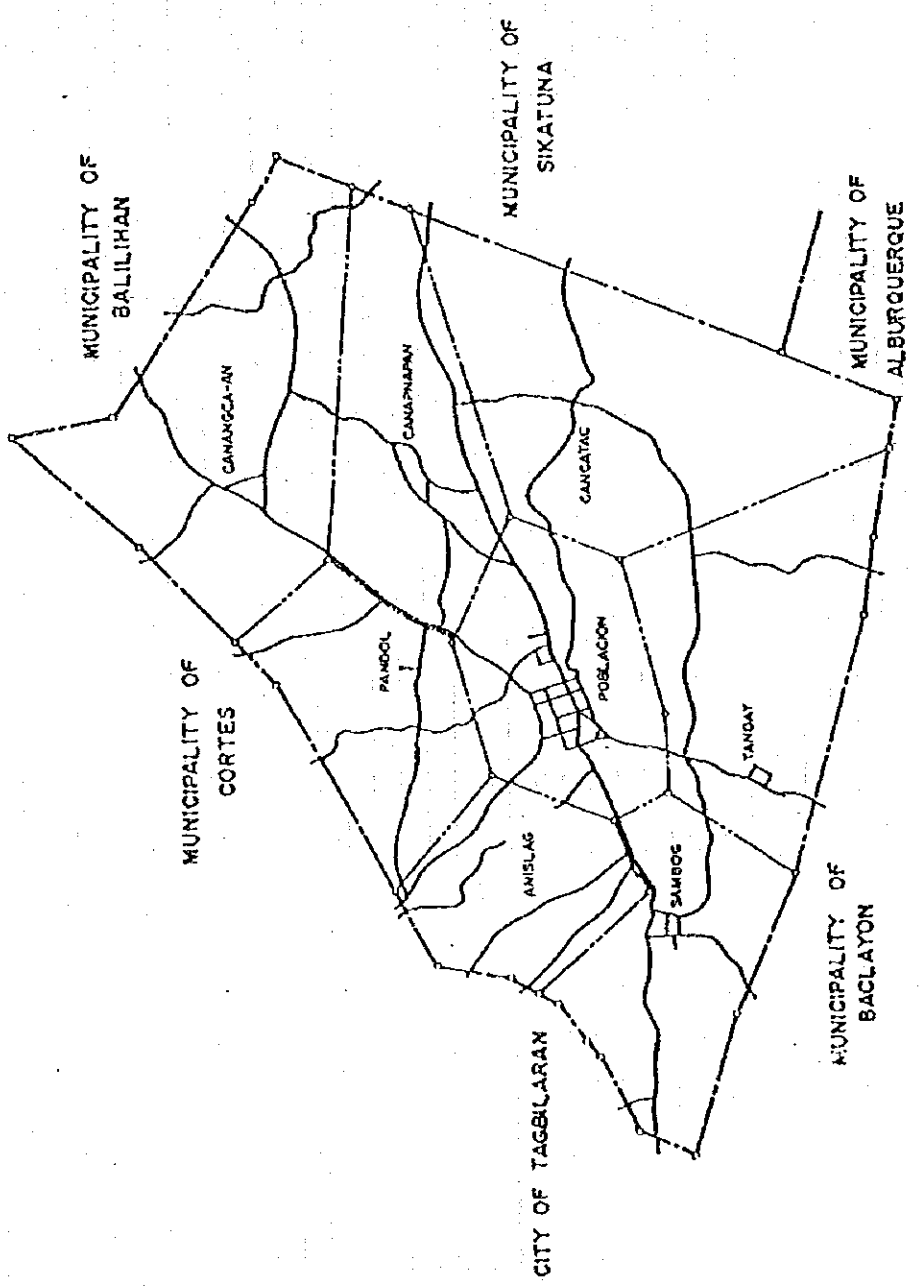
MUNICIPALITY OF  
**CORELLA**  
 PROVINCE OF BOHOL  
 REGION VII



LEGEND

- MUNICIPAL BOUNDARY
- SABANGAY BOUNDARY
- MAJOR ROAD
- MINOR ROAD
- RIVERS & CREEKS

SOURCE: Municipal Government Staff  
 NOTE: Political Boundaries are Approx.



## 3-2 農村生活改善

### 3-2-1 農村生活改善・普及

#### 3-2-1-1 農村生活の改善

##### (1) 農村生活の改善と本プロジェクトの関係

“農村生活の改善”を実施するということについて、フィリピンが国家としてどう考えているかということは、現在実施中の国家開発計画の基づく中期農業開発計画（The Medium-Term Agricultural Development Plan ; 1993-1998）の中に「農民や漁民の所得の増大と生活の質の向上を目指している」とある。（1995年1月フィリピン農村婦人地域特産物生産加工推進計画事前調査団報告書、4. 開発計画における当該分野の位置付けと政策の4-3中期農業開発計画より引用）

農業省の一つの局である農業研修局（ATI）での会議で「生活の質をどう考えるか」ということが話し合われた。

また、最近では国際的な傾向を受けて、女性に焦点を当てた人材育成を通じて、農村地域の生活の向上に資する事を目的として、女性グループに対して、農産加工原料栽培技術及び生活改善技術等を普及しようとしている。フィリピン政府は「農村女性のための地域特産物の生産及び加工に関するプロジェクト方式技術協力」という要請をしてきたが、そこには、女性グループに対しての生産指導を優先するという考え方があり、生産しても売れなければ所得向上にはつながらないという掘り下げもないではないが、「生活」そのものについてあまり考えてはいない状況があるように思われた。

そのような中で、本プロジェクトはATIの研修が「農村生活の質の向上」を目指して、農家家族を生活者として生活の総合性に根ざして把握し、内発的な活力を養うような研修へと体制改善を図ることに努力するものであるということを確認し、そのことを念頭において調査を進めた。

##### (2) 農業研修局(ATI)における“農村生活の改善”についての取扱の現状

###### 1) 農村生活改善の担当

ATI本部の組織は4部あり各部から今回の協議の何れかの日に出席があった。全体を通して出席したのは、専門技術部と計画評価部、普及情報部であった。前半の司会は、専門技術部長で、後半は、専門技術部生活資源管理課の職員であった。“農村生活の改善”についての担当は生活資源課課長補佐の Ms. Patricia JIMENEZ と後半の司会をした Ms. Edarlina PERDIDO の二人であった。

その他、留意することとして農業省が1991年まで改良普及員の指導を通して育てた農村の女性組織 RIC（Rural Improvement Club）がある。現在その本部はATIの中にあり、専門技術部の指導下にある。普及組織は地方自治体に移管されたが、RICは

農村女性グループの団体として、全国にネットワークを持つ NGO で、その規約は19章にまとめられている。農村部のバラングイにそれぞれ1～2のクラブがあり、全国組織に成長し20年あまりの歴史を持つ。この団体の目的は、“農村生活の改善”でその遂行の主体であり担い手である。規約の始めとして“Better Home and Community Life through Women's Participation”をかかげ、活動のモットーとして“Better Homes for Better Family Living”としている。

## 2) 農村生活の改善に関する研修

年間報告によると1994年には「農業人材育成プログラム」「開発支援コミュニケーションプログラム」「訓練研究プログラム」、1993年の各種プログラムの中に「新しい研修方法と技術、計画的学習と技術援助の開発カリキュラム」等あり、その内容には、ナタデココや根菜類の加工技術指導、農業記録（簿記？）の進め方、ナタデココの採算性の調査研究、魚の加工・バスケットの編み方の研修、養蜂技術の研修、農業安全シンポジウム等がみられた。又、関係団体と連合している中に、子供の福祉審議会、国民栄養審議会、健康の分野等というのがある。しかし、農村生活の改善（Rural life improvement）というテーマは読み取れなかった。

## 3) 生活の質の改善についての考え方

2日目の協議の中で、部長、次長、局長から説明があり、そのあと当方の説明をした。フィリピン側の要旨は次の通り。

- ・人々の力を付けていくことによって生活は改善されると考えている。限られた資源を管理し、農業を自分たちで改善していける。
- ・農業省で出しているビジョンのように企業家精神を持った農家を育てること。
- ・生活の質を何によってはかるか、具体的には収入、子供の教育、その他の社会的なこともあり、複合的な指標を以て定義していかなければならない。
- ・生活の質を定義するのは難しい。経済的なものだけではない。しかし、経済的指標から考えていく必要がある。限られた資源を活用して、生産できる可能性を拡大していく、都市近郊では、換金作物に変わってきている、その流通システムを開発することも重要だと思う。
- ・今までのように、余剰が出たときに売るのではなく、加工によって付加価値を付けることが大切である。
- ・これ以上農地は増やせないなので、人口を他の産業に振り向けていく、或いは作物の多様化により発展させていく。
- ・流通システムに関しては協同組合に参加するということがあるが、農民はローンが必要だから入るが、ある地域で貯蓄組合を作ったが、ある日、事務局長がお金を持つ

て逃げてしまった。

- ・フィリピンでは家の財布は圧倒的に女性が握っている。
- ・農業はフルタイムで働いても儲からないから、男は出て行ってしまふ、女や子供が草取りをして畑を細々と守っている。
- ・普及は、女性にも、どういう品物をどういう相手に持っていけば売れるのか、地域の組織を充実したり、地域資源の開発をする過程で女性や子供が果たしている役割が大切だと考えている。

#### 当方の説明要旨（掘家の分のみ）

5項目（a, b, c, d, e）、4段階、6ポイントということで話をした。

- a 生活必需品を自給することによって、安全で安心な暮らしが出来る。農家の裏庭の菜園や屋敷林、池などを見なおし、そこから得る食物の栄養価や家計への寄与率を検討する。換金作物の奨励と併せて、家族の健康を守る栄養的に考えた自給作物の大切さを確認することも大切であると考えている。
- b 加工技術とマーケットの仕組みについて考えておくこと、すぐれた加工技術は地域にある、名人といわれている人の作り方を、その人と共に科学的に分析するなど、農民の工夫による埋もれている技術を集めて普及交換する。余程優れていなくては消費者は買わないこと、需要についての検討、運び方、売り方、そして消費者をどう育てるかなど考えなくてはならない。
- c 生活のサイクルと永続性のある豊かな暮らしのために考えておくこと、生活のサイクルの四つの過程、生産過程、消費過程、廃棄過程、自然還流過程が、バランスよく循環していくことが望ましいのであるが、現在では、あまりにも生産過程が大きくなりすぎて、廃棄過程が間に合わなくなり、日本でもゴミの処理など問題を抱えている。その上、自然に還流しないものを作ってしまった。これからの発展には環境保全について配慮しないわけにはいかなくなっている。
- d 農村生活の改善には五つの観点、安全性、保健性、快適性、利便性、連帯性について考える。
- e 生活者として生きていく能力の充実のための4段階と6ポイント
  - 1段階 基礎的生活技術の習得
  - 2段階 勤労者としての生活技術の習得
  - 3段階 賢い消費者（購買者・貯蓄力）としての生活技術の習得
  - 4段階 生活を適性に経営する生活技術の習得それぞれの段階は、健康、経済、教育、ライフラインの発達の具合、リーダーの育

ち具合、社会の意識の6ポイントで診ていってはどうかということ。

aの項目は局長の説明に対するもので、この後、富田氏、堀家の説明に、次長、局長から、それぞれ感想が述べられた。概ね了解を得たと思われる。

#### 4) その他、農村生活の改善についての聞き取り

ATIの生活資源管理課の2人の職員からは以下の話をきくことができた。

- ・家庭菜園、屋敷林についての指導、栄養バランスのとれた食生活、家計簿を付けること等は指導している。フィリピンの食品分析表は専門的な分厚いものを見せられたが、一般の見易いものは作られていないということであった。栄養バランスについて、フィリピンでの具体的な食品など強調点について再度尋ねだが、はっきりしなくて「バランスのとれた食事」という言葉だけが返ってきた。自給用の農産物について栄養設計や、家計費寄与率などの計算はしていないということである。

- ・農産加工については、RICのメンバーの中には地域で名人といわれているような人はいるということであったが、特にリストアップしたり、技術を分析して研究するなどにはしていないということであった。

作り方は、それぞれ個人で小規模に作って売りにいく程度で、共同加工の事例はないようであった。手作り加工品はスナック類は、ジープニー、トライシクル、歩き、のいずれかで、勿論専用の物があるわけではない、個人的に人の集まる所、約束した店に持っていく程度ということ、竹籠等は仲買い人が集めに来るということであった。

仲買い人や小売りは免許制度で色々なレベルがあるという、行商に関しても一般的には許可はいらぬということであった。

RIC他女性グループの農産加工の研修は、加工技術に焦点があり、仲買いや需給の問題までは扱われていない感じである。

- ・農産物市場を広げるための消費者教育は殆ど考えられていない。
- ・農家家計費の研修は大学の先生に依頼している。レベルのRICに対して家計簿をつける指導はしてきたが、一ヶ月の家計費や食物費など具体的な事項については現地で調査する必要がある。

#### (3) ATI-FTC: Farmers Training Center (BOHOL) における“農村生活の改善”についての取扱と現状

ここで実施している研修のテーマには、稲作、玉蜀黍づくり、牛の肥育、スレジットマネージメント、ココナッツの加工、共同におけるメンバーシップ、等約20の内容が並び、年間30回余り行われている。食品加工技術のリーフレットは10種類余り作られていた。

しかし、この中に農村生活に近いテーマは見当たらなかった。終始協力してくださった2人の職員は、農業経済と、食品科学の専門ということであった。食品科学は、栄養学とは少し分野が異なるようであった。所長を始めとして、女性職員も数人で全員が何かと協力的であった。

#### (4) コレリア町とカナブナパン村における“農村生活の改善”の現状

##### 1) 農村生活の担い手としての RIC の活動

RIC (地方改善グループ) は女性のグループで、農村生活の改善の主体であり、リーダーでもある。普及員の指導援助を受けて、コレリアには8村落に9グループあり、その一つがカナブナパンのグループである。

9グループは共同してマーケット(公設市場)に間口3mぐらいの店を持っている。この店を事務所にして2人の事務員を置いている。マーケットのある日(週一回)にはメンバーは売りたいもの(例えば、バナナ、カカオ、ローカルチョコレート、なす、豆、南瓜、へちま、スナック、その他)を持ち寄り販売することが出来る。又、グループ員が希望するものを共同購入している。塩、砂糖、油、香辛料、缶詰、石けん、洗剤、糠(豚の餌)等を当番がタグビラン市でまとめ買いをしてくる。マーケットはコレリア町の庁舎のそばで、タグビラン市からは一時間足らずの場所であるが、朝早くから開設されているので、調査の時間にはRICの売り物は売り切れていた。

RICの村落の会長3人に会うことが出来た。それぞれ女性のリーダーらしく、和やかで暖か味のある賢さを感じさせる方々で、日本の生活改善グループの会長や、農協・漁協の婦人部長と同様の懐かしささえ感じるものがあった。カナブナパンの会長は、前回までバランガイキャプテンに選ばれていたということで、そのことは、それほど耳をそばだてる事でもなく話されたので、村レベルの男女平等は、日本より共同参加型になっている。

又、農業団体と共同組合を作り、組合員にローンの貸し付けをしている。

カナブナパンのRICのメンバーは34人、出来てから23年になる。月一回定例会があり、前回はRICのヘルスワーカーから料理を習ったという。7月にコレリア町でクッキングコンテストがあり、カナブナパンから2名出て野菜料理で優勝したが、それほどどこにでもある野菜を使って栄養があり安く出来るものだったからという。

##### 2) 農産加工技術とその販売

RICの女性たちは、会の始まりに7種類のスナックとココナッツミルクを用意し、集まってきた全員にふるまった。

7種類のスナックの主な材料は、米とココナッツミルク、玉蜀黍の粉であった。バナナの葉で包んで蒸したもの、餃子の皮の大きいもので、甘い餡を包み、油で揚げた



もの、蒸しパンふうのライスケーキ、キャッサバチップ、バナナチップ、バナナの削ぎ切りをから揚げしたものなどである。ウビキナンパイは芋のまま出荷するということで、また、時期はずれでもあって、手作りの段階ではなかった。

バランガイホールの左側コーナーの板戸を上を跳ね上げると、俎や竈、流しが出てくる仕組みになっている。その前に机を置いて、ココナッツを割る人、バナナを切る人、竈で揚げ物を作る人など分担して準備が始まった。この3 m幅の施設は外国からの支援で作られたカナブナパン唯一の共同台所である。近々、バランガイホールが建て直されるときの取り払われないように頼んでいるが、心配であるといっていた。

この日のスナックも大部分は個人宅で作り、竹籠に入れてきていた。売りにいく人は限られている様で、その運び方も手に持てる程度のものである。3戸の戸別訪問をしたがこの3人の女性は、時々売りにいくということであった。

### 3) 健康状態と生活

カナブナパンのココナッツヤシその他の高い木々の並ぶ林のなかにバランガイホールがあり、集まってきた人々の2~3人は靴を履いていたが、ほとんどの人はゴム草履を履いて洗い晒しの衣服をきていた。痩せ形で小柄の人が多く、半分ぐらいの人はあまり健康そうには見えなかった。雨期で時々雨が降るという状態であったが、晴れの日には、洗濯物を網を張り巡らして干してあった。

#### <健康状態>

コレリア町のただ一人の保健所の医師によると、月曜日のマーケットのある日には30人から50人の人々が診て貰いにくるということであった。交通費と時間が掛かるので、病気と思ってもなかなか来ないし、また、処方箋を渡しても、殆どの人は薬を買わないということであった。普及員の話では、ちょっとした咳や熱は、薬草に頼り、村には公営薬局というのがあって、安く売ってくれることになっているがそれは少なく、医者代は高く、処方箋で薬を買うのは少ないということであった。保健所の資料によると、優先的な健康問題として次の病気が上げられている。

- |          |        |          |           |
|----------|--------|----------|-----------|
| 1 呼吸器系疾患 | 2 下痢   | 3 怪我     | 4 肺炎      |
| 5 皮膚病    | 6 寄生虫  | 7 肺結核    | 8 痛風、リウマチ |
| 9 栄養不良   | 10 高血圧 | 11 水ぼうそう |           |

また、主な死因についても多い順にみると以下のようにになっている。

- |           |       |        |       |
|-----------|-------|--------|-------|
| 1 高血圧、心臓病 | 2 肺炎  | 3 癌、腫瘍 | 4 肺結核 |
| 5 栄養不良    | 6 白血病 | 7 腎臓病  |       |

医師の説明によると、呼吸器系疾患や肺炎には、一歳未満児が罹ることが多く、特に雨期の気温の変化で起こりやすく、食物に注意して、体の抵抗力を高め、基礎体力

を付けなければということであった。伝統的な薬草が使われていることに対する医師のコメントは、咳止め程度で効果は期待できないとしていた。怪我以外の疾病は生活の仕方に原因があるものが多く、特に食生活と、貧乏によるストレス、また、衛生的な生活の工夫に欠けるものと思われた。

タグピララン市まで行けば医者も病院もあるが、おおかたの人はちょっとした発熱は薬草に頼っている。

95才で元気なお爺さんや、90才を超えて子守をしているお婆さんもある、寝たきり老人はバランガイに1~2人いるかいないかであるという。

#### <食生活と自給用農作物の栽培と飼育>

農作物としては、ココナッツヤシ、玉蜀黍、ウビキナンパイ（山芋の一種）、生姜、なす、ロングピーン、その他にときどきバナナがあり、たまに南瓜が一つ転がっているぐらいで、草が生え、灌木や大木が茂っていた。その中に緑の野菜「カンコン」があった。灌木の葉の中に料理によく使われるもの（例えばマロンガイの葉）のもあり、緑黄色野菜についてはもっと調査しなければならないが、どうみてもこの辺りでは量が少ない。無造作に作られていたカンコンや南瓜は、もっと増やせないものかと思う。鶏卵については、庭に5羽位放し飼いにしている。1戸だけ特殊な事情で200羽の雛を飼っていたが、もう少し育てて売るということであり、日常的に卵が食べられるとは思えなかった。魚は行商又は、町のマーケットで購入する。日常の食事は魚の干物、塩辛が多い。多くの人は魚も毎日食べられないという。牛乳はフィリピンでは輸入品である。タグピラランのデパートでは牛乳、粉乳、スキムミルクなどを売っているが、農家ではゆとりのある家が、乳幼児用に購入するぐらいで、一般の人には緑が無い。飼育している山羊は肉用で山羊乳は飲む習慣が無く、強いて言えば水牛の乳は飲むということである。6月の栄養月間のキャッチフレーズは「強い骨を育てるためにミルクを飲みましょう」だったという。

大豆は醤油の材料として使うということであるが、この町では栽培していない、緑色の小豆大の豆（ムンギスマンピーン）は栽培されている。豆としてはこれを使うということで、過去に外国の援助を受け、子供の栄養改善のために、米、緑色の豆、魚粉を使ってスナックを作り、子供の栄養を改善し、乳幼児死亡率を減らすことが出来たという経験を普及員から聞いた。この緑色の豆の栄養価が大豆とどう違うのか調べる必要がある。

農家は客用か、祭り用かでなければ、卵や肉を買うことは少ないので、栄養的な不足、まして緑黄色野菜を買うことはしないので、栄養調査が必要である。

祭りの時は大変に豪華な料理を用意し、年一回は豚一頭を漬し、酒も用意する。そ

のあとはまた慎ましい米又は玉蜀黍の飯と塩辛や干し魚の食事になるという。

#### 4) 経済状態と生活費の管理

農業経営費や生活費の凡その事を聞きたいと思ったが、記録していないという。普及員は農家の一ヶ月の生活費は、1500~2000ペソ位で、今までにも、収入と支出の記録の指導をしたが長続きしなかったという。ポホール農業振興センターの稲作指導の専門家である井口氏は、農業簿記への入り口として、一週間ごとに担当者が記録を集めて分類するなど初心者向けのきめ細かい進め方を実施中であった。

貧乏によるストレスが大きいというが、その原因は教育費にあり、フィリピンは、初等教育6年、中等教育4年の10年間は、公立の学校は授業料は無料である。授業料以外の教科書、制服、各種団体会費などが自己負担である。高等教育はアルバイトをしながら行く人も多いということである。貧困のために小学校4年までに退学するのは全国で60%ということであるが、コレリアでは殆どハイスクールに行くというから、教育に熱心な所と言うことが出来る。

生活をつめて、こどもを教育しようとする暮らし方は、かつての日本の大方の家庭の考え方と同じだと思った。いくらかでも土地を持ち、何とか子供をハイスクールにやれるという層の生活は、生活費の収支を工夫したり、農業の経営簿記を付け考察することが最も必要な層と考える。RICの定例会では、複雑な頼母子講をしていたし、RICとFA (Farmer's Association) の共同組合では、ローンの貸し付けをしている。記帳能力はあるが習慣化されていない。

ローンの貸し付けについては、コレリア町のRICとFAの共同組合で行っている。貸し付けの期間は、一人6カ月、利子は1カ月3%だが6カ月で返せないときは次から5%になる。上限は500ペソで、現在20人ぐらいの人が借りている。借りる目的は生産のために生産以外の目的には、貸し付けは行われぬ。月一回、3~4人のクレジット委員が、申請を審査するという。返し方は一度に元利金を返してもいいし、毎月に分けてもよい。

所得創出については研修があり、今も続いているようで、カナブナパンのRICの定例会を訪れたとき、豚の飼育について話をしていた。生後2ヶ月位の子豚を買って、6ヶ月飼って肥育したのを売る。餌代などのためローンを借りて飼育する人が多いようである。その他、個人的に生産したものを、RICの店で売る程度で、共同活動として、栽培、飼育、販売などはしていない。

#### 5) 給水と排水

この町の人々の一番の問題は水である。庁舎内に井戸や簡易水道の写真や図があり簡易水道の受益者は50戸余りであること、町の中心部のみという感じである。カナブ

ナバンには水道はない。

カナブナバンの給水は107戸の農家が、7区画に分かれ、井戸は5箇所であるから1区画に一つというのではない。上層の農家は屋根の雨を集めて貯めるセメントの大きな水槽をもっている。一般の農家はトタンで出来たドラム缶大の水槽である。水槽の中には特に濾過装置にはなっていないと言っていたが蛇口はついていた。飲料水と洗濯、水あびは井戸水で、雨水は農業用ということであった。

集落の所々には、凹地があり水が溜まり牛の遊び場になっていたが、台所の排水は家の裏側の畑などに自然にしみ込んでいく、集落全体はなだらかな高低差がある。小学校の校庭の隅にあったトイレは雨水を手杓で流す方法であったが、貯留槽や排水溝ははっきりしていない。農家ではトイレの無い家が一割位はあり、有っても母屋からかなり離れて余り使わない形である。保健所では、井戸の水質は比較的良いと言っていたが、乾期には水位が下がったり、出なくなったりするということであり、水質検査もしているということであったが、頻度は定かではない。下痢や皮膚病などは水の不便なことを表していると思う。バランガイでのトイレや排水の状態は、伝染病などの流行の場合は、防ぎ様が無いだろうと感じた。

家畜は鶏は5羽ぐらい、豚、牛、いずれも1~2頭ぐらいで、その糞尿は垂れ流しであるが、隣が殆ど見えない位離れているから、今は気にならない。今後、有機肥料を活用する場合は、家畜の糞尿の上手な利用が望まれる。

#### 6) 電気・耐久消費財

この事について、改良普及員とRICの会長が凡その事を話してくれた。

コレリア町の世帯のうち2割程度は電化されておらず、電灯がついていない家がある。主要な電線から離れていると個人の家に引き込むのに、かなり費用が掛かるためである。ラジオは5割の世帯が所有している。テレビはバンガライによって1~4割入っている。扇風機は1割位、冷蔵庫は3%位、ミシンは5%位普及しているということである。自動車を持っている農家は数える程もないということであった。冷蔵庫はサリサリ（よろずやのこと）をしている場合に持っているとか、ミシンがあれば仕立て屋をするとか、自動車があれば運搬の仕事をするとか、そうでなくて持っているのは上層の農家といえる。

マニラとボホールとの格差は大きく、特に電気とか機械に関しては50年以上の開きを感じた。

以上、農村生活の改善についてまとめたが、8~9月の限られた期間のことであるから、いずれも、今後の本格的な調査が必要である。

### 3-2-1-2 普及

#### (1) フィリピンにおける普及事業の体制の経緯と現状

1991年の Local Government Code により、中央政府所管から、地方自治体へ移管された。これにより、農業省 (DA) の職員の43%程は、地方自治体の職員に所属変えになった。そのため系統的な通達が、うまく行かない場合がかなりあるようで、ATI は地方自治体に、研修の案内状を出し、市町村長が出席者を決めるということである。

1995年の現在でも、その混乱は続いていて4町のそれぞれの普及所を訪問したが、普及員と町がうまくいっている場合とそうでない場合とに二分される。自治法のなかに自治体の職員は、管内の人を採用するように決めてあるということで、前者の場合は普及員がその出身者であるため、上司からのバックアップがあり、農業政策への提言が受け入れられ、若くてもそれなりに処遇されているのである。コレリアの普及所は後者の場合で、壁面に掲げてあるワークプランは、1991年と書いてあってその時までであった。普及員はプロジェクト活動に活動費が付いていたのは、この時までだったので、その証拠にそのままにしてあるということであった。1991年より前から務めている他の自治体の出身者の場合は、殆ど具合が悪くなって、中途退職したり、転任したりしている。ひどい場合は、この4月に退職して8月になっても引継ぎさえしていない状況であった。具体的な普及活動の在り方の指導書「MANAGING MUNICIPAL AGRICULTURAL EXTENSION IN THE PHILIPPINES」を普及員に見せて聞いてみたが、部分的なコピーを研修でもらったが、パンフレットにまとめたものは、退職した MAO が持っているはずであるという。そのような最悪の状況に関係者は、わかっているが誰も改善出来ない体制なのだということである。3人の内一番若い普及員がこの町の人で、彼が育つことが待たれるわけである。

#### (2) 普及指導の組織

中央の (ATI) のもとに、NTC (National Training Center) が4箇所、RTC (Regional Training Center) が13箇所、FTC が17箇所あり、これらは全部国家公務員であり、場所は全国的に存在している。ポホールには、FTC の一つがある。

・農業普及所は、市町のレベルに移管されているので、市町や町長の意向により活動している。ATI とは研修で繋がっている。移管が実施されてから3~4年であるから、今のところは相互に面識がありなんらかの形で続いているように思った。ポホールの FTC の職員と、コレリアの MAO (Municipal Agricultural Officer : 所長) 代理の普及員は親しくしていた。農業改良普及所の事務所としての姿は移管される前よりよくなっているとは考えられない。共通している事は、各自の机とタイプライターと背負い式の噴霧器と黒板等がある。その他機械らしいものはなく電話もない。又、普及員

の専用の交通手段は何もない。おそらくそれぞれの自治体が用意することになっていたのだが、そのままになってしまったと思われる。

コレリアの普及所は、天井に50cmの蛍光灯が1本付いていた。コルテスの普及所はまったく電灯が無かった。ダウイスの普及所とカビテ州のタンサの普及所は蛍光灯が何本か付いていた。

- 普及指導活動はフィールドワークと研修に分かれていて、FTCはAT（改良普及員）と農業者のリーダーに研修をする。普及員は市町村のバランガイホールで集会を開いたり、農家を訪問したり、アクションプランを立ててフィールドワークをする。普及員数人のまとめ役としてMAOがいるが、MAOの本来の役割は、市町村の農業担当として活躍し、あまりフィールドワークはしないらしい、「私はMAOですからフィールドには出ません」と応えたMAOがあった。普及員のアクションプランはMAOが待っていて、皆で相談してプランを立てるということで、アクションプランは普及所の事業遂行計画で、普及指導活動計画のように農業者の課題を解決していくというもの、多少、異なるように思った。

今のところ、普及員に独自の交通手段がなく、そのうえ活動費が足りない。普及員の一人は急ぐ場合は警察の車に乗せてもらい、活動費からガソリン代だけ払うと言った。

普及員の移管後の担当は全員ゼネラリストとして何でもすることになっている。しかし、実際は担当だったことは扱えるが、そうでないものについては元の担当だった普及員にお互いに助けられている。コルテス町のMAOの元ホームマネージメント担当で、現在はゼネラリストの女性は、豚80匹分のワクチンを魔法瓶に入れて農家から農家へと豚に注射するために山道を急いで歩いていた。コレリアのMAO代理はこの地域をよくわかっている。そして、ゼネラリストとして緊急な仕事をしている。農家の人は、普及員は活動費が割られて、村にくる事が出来ないと言っていた。

ボホルのダウイス町の普及所は3人の普及員と40代の所長でマンゴの苗木を沢山育てて農家に配布する準備をしていた。3人の元の担当は「生活改善」「農業教育」で、MAOは「農業経済」でこの普及所は、人が揃っていると感じた。

### 3-2-2 生活資源カタログ調査

具体的な協力内容について検討をするために、対象となる農村生活の現状の仕組みについて理解する手だてとして「生活資源カタログ調査」を実施した<sup>1</sup>。暮らしを全体的に資源活

注：

<sup>1</sup> 生活資源カタログ調査については、国際協力事業団農林水産開発調査部、1994、「農村生活改善のための女性の技術向上基礎調査報告書（フィリピン）」でフィリピン政府のAgricultural Training InstituteのBohol Farmers Training Center (ATI-FTC) ならびにBohol Agricultural Promotion Centerの協力を受け、ボホル島Cananapan MunicipalityのCorella集落において「生活資源カタログ調査」を試みた。同報告書及び同事業同部、1995、「農村生活改善のための女性の技術向上基礎調査報告書（インドネシア）」を参照。

用から見ていく場合に、地域の暮らしに密着した「ローカル・マーケット」の調査を平行して実施する。地域社会の生活環境が提供する資源のみでは地域の生活は成り立たないのであり、地域外部から何らかの手段を用いて資源を導入する。その最も役割が大きいのはローカル・マーケットである。

### 3-2-2-1 調査の目的と方法

#### ● 調査の目的

対象となる地域社会の農村生活を把握するには、簡便な調査では困難であると言っている。対象となる地域の人々がどのような仕組みで暮らしを支えているのか、最も重要なのは、地域の資源をどのように確保して暮らしを組み立てているかを理解することである。しかしながら、資源の暮らしでの用いられ方は、固有の要因をもっており、例えば同じバナナであっても暮らしでの用いられ方が異なれば、バナナという表象は同じでも異なる生活様式の中では異なる資源として扱うことが重要である。このような認識なしに農村生活の理解は不可能である。抽象的にいえば、資源は固有の価値体系によって位置づけられているのである。生物学的に同一種でも用い方が異なれば、異なる資源として理解することになる。

これらの先入観を抜きに資源を位置づける方法を用いることが重要である。同一の地域社会においても資源の価値は異なるのである。森の資源を重視する民族は、森の資源を確保するように家庭菜園をつくる。樹高の高い果樹や中高性の樹高を組み合わせて、さらに池をもって資源の循環系を維持しようとする伝統をもつ民族では、開発地域でも伝統的な生活の仕方を踏襲した設計をしている。外部のものには資源に依存していないように見える家庭菜園でも、少量ではあるが多品目の資源が用意されていたりする。そして、男性は細かい暮らしに用いる資源を重視せず、換金性の高い作物を指摘するのに対して女性は、暮らしが成り立たないと困るので少量でも多種類の資源が重要であることを指摘する。このような男女の差異、つまりジェンダー視点が確認できるのであり、このことが開発あり方そのものにかかわってくるのである。

今回の調査では、男女の差を意識した調査ではなく、女性の視点から資源を把握することを主としておこない、その資源の活用の仕方、その利用資源の配置、つまり土地利用の仕方等の分析を通じて、資源を位置づけるその地域での農村生活の仕組みを明らかにすべく分析をした。

これらの調査を通じて、農村生活の実態を把握してその実情に即した研修の進め方の必要性を議論した。これらの調査手法は、プロジェクト開始後、住民参加型で実施されることが、期待され、外部のものが対象地域の暮らしを理解する手だてにすると同時に、地

域内部のものが自らの暮らしの利点を含めた特徴を再認識する機会をもつくりだすことになる。農村の生活改善は、このようなプロセスの中で実施されるプログラムである。

#### ● 調査の方法

特定した女性のインフォーマントの指示する資源をインスタントカメラに収録していく。収録の原則として1資源1写真にしてフィールドで1対1対応で収録する方法で調査する。具体的には、農村女性が日常の生活の上で立ち回る家庭菜園や畑、森など資源採取をしている地理的空間に案内してもらい、資源収録をしていく。また、現地の農業技術者の同行を依頼し、資源の現地語(部族語など)による呼称を写真にメモする。今回は、ポホールのATI-FTCのスタッフがあたったが、長期調査の役割重複があるために、実際の収録フィールドには同行せず、集落で雇った通訳を通じて資源名をメモし、インスタント写真を見ながらATI-FTCスタッフが修正を加えた。今回は、インフォーマントが指し示すすべてのものを収録することを試みた。

収録したインスタント写真をフィールドでカードに添付してその資源の生活での使い方を一つ一つカードに収録する。説明の途中で、インスタントカメラに収録されていない資源が出てくると白紙のカードに名称と利用方法を記入し、カードに加える。これらの全資源リストが「生活資源カタログ」である。

最終的に整理するときに、現地標準語による名称、英語名、学術名などを調査し記入しておく。生活での利活用で重要なことは、同一種で亜種などがある場合、例えば、果実として食べるバナナと料理に使うバナナは異なるが、このことも別種類の資源としてカードを別に加えることが重要である。また、暮らしの中での資源の使い方ポイントとなるのは、一つの資源を多目的に使用している場合である。ココナッツやバナナなどは葉や根まで多用途に利用する。食用ばかりでなく、建築材や燃料、ものを包むもの、薬としての利用、おもちゃや遊び道具など資源の活用法は全て記録する。料理などもその名称を記録しておき、料理の方法の調査の資料とすることが可能である。

#### ● インフォーマントの選定

重要なのはインフォーマントの選定である。今回は、フィールド調査に平行してPCMワークショップが開催され、また、別途普及の調査がなされていたために、車両ならびに農業技術者の同行が望めなかった。しかたなく、既にコンタクトのあったインフォーマントを中心に資源調査を実施した。通訳にはインフォーマントの息子をお願いした。

一般的なインフォーマントの選定にあたっては、自らが家庭の切り盛りをしている主婦が好ましい。したがって、裕福でもなく、貧困で暮らしが大変な層でもなく、資源の種類もその利活用の方法も知っている中年以上の女性が適当である。

時間的余裕があれば、貧困層や裕福な層などにひろげることが好ましい。また、多民族



が混住している場合は、資源に関する価値観や土地利用観が全く異なる場合もあるため、部族ごとに調査を実施しなくてはならない。

### 3-2-2-2 「生活資源カタログ調査」の結果

#### ● インフォーマントのプロフィール

表1は、「生活資源カタログ調査」の対象となったインフォーマントのプロフィールである。アドルフ・アバレさん(以下敬称略)は、カナブナバン・バランガイにあるRIC(Rural Improvement Club)の会長であり、前カナブナバン・バランガイの村長でもあった。現在ではコレリア町全体のRIC連合会の副会長でもあり、コレリア町全体のRICがつくっているボホールコレリアRIC農民組合(CMCI R. I. C. -FARMERS COOP.)の会長でもある。この組織は、農民組合で、日本の農業協同組合とは異なり、生活協同組合である。会員が生産した米やトウモロコシ、豚の飼料を販売し、暮らしに必要な砂糖、缶詰、粉ミルク、麺類、たばこ、酒類などを共同購入して月曜に開かれるコレリアのマーケットに店を出して活動している。アバレ一家の生計は、自給的な農業と子供たちの仕送りによって成り立っている。また、彼女は、カナブナバンの保健係(Barangay Health Worker)でもある。保健係としての研修を受けており、村では指折りの医療の知識をもっているといわれている。そのような関係から、薬草に関する彼女の知識は非常に豊富である。

テオピスタ・アルベッサさん(以下敬称略)は、アドルフの隣に住むもとRICメンバーの農家である。農業を主とする生活をしている。積極的な農業をしており、スーパーマーケットと契約をして200羽のプロイラーを行っている。調査時点では生後6日目のひよこが飼われていた。ココナッツのコブラ(copra)生産、換金作物としてのピーナッツ栽培などが行われていた。

#### ● 生活資源カタログの概要

生活資源カタログ調査で収録した資源数は、205点であった。それをこちらの視点で分類した結果は以下の表の通りである。ここでは、便宜上、次の22のカテゴリーに分けた。この分類は、ATI本部でのPCMワークショップの参加者が行ったものをもとに、富田が修正したものである(表1参照)。また、205の資源リストは、表2に示した。

これらの資源の利活用の状況について「基本的資源」、「農林産物」、「生活用具」、「農作業用具」にわけて略述する。

Profile

Informants Profile

name	Adolfa APALE	Teopista ALBEZA
<b>PERSONAL</b>		
sex	female	female
age	63	59
position	President of C RIC	
No. of Household Members	5	6
<b>LAND</b>		
Owned land	1.5ha	2.0ha
Leased land	0.5ha	
main crop	mais	mais
paddy	0.13ha	0.5ha
irrigation	non	non
<b>AGRICULTURE</b>		
other crop	ubi kenampay	coconuts
	coconuts	peanuts
	ubi native variety	sweet potato
	pechay	banana
	cacao	ginger
	cofee	ubi kenampay
<b>LIVESTOCK</b>		
carabao	1	2
cow	2	3
pig	2	3
poultry		200
native chicken	about 10	about 20

Informant's family composition (The APALE)

no.	name	sex	relation	age	married	occupation	residence
1	Adolfa APALE	f	origin	63	married	farming	
2	Simeon APALE	m	husband	72	married	farming	
3	Maria Elvira APALE	f	daughter	37	single	Accounting Dept. store	
4	Felipe APALE	m	son	36	married	APC Agr. Technician	Tagbilaran City
5	Gerardo APALE	m	son	34	married	private company employee	Manila City
6	Hermes APALE	m	son	32	married	private company employee	Ilongkong
7	Maria Evelyn APALE	f	daughter	29	single	private company employee	Cebu City
8	Ricardo APALE	m	son	28	single	private company employee	Cebu City
9	Justino APALE	m	son	25	single	on recreat	
10	Maria-Fe APALE	f	daughter	24	single	private company employee	Taiwan
11		m	grand son	1	single		

Informant's family composition (The ALBEZA)

no.	name	sex	relation	age	married	occupation	residence
1	Teopista ALBEZA	f	origin	59	married	farming	
2	Julian ALBEZA	m	husband	54	married	farming	
3	Artemio ALBEZA	m	son	33	married	farming	
4	Lydia ALBEZA LUMACANG	f	daughter	30	married	government employee	Canlosong Canapnapan
5	Teresila ALBEZA CASIMSINAN	f	daughter	28	married	private company employee	Tagbilaran city
6	Eulogio ALBEZA	m	son	26	single	private company employee	
7	Concepcion ALBEZA	m	son	24	single	private company employee	Cavite city
8	Anna Liza ALBEZA	f	daughter	11	single	student	
9		m	brother/L	66	single	farming	

表1. 「生活資源カタログ」のカテゴリー分け

No.	Category	分類名
1	FOREST RESOURCES & FRUIT TREES	森林資源・果樹
2	AGRICULTURAL CROPS	農作物
3	VEGETABLES	野菜
4	MEDICAL PLANTS	薬草
5	FEEDS	飼料作物
6	ORNAMENTALS	観賞植物
7	FARM ANIMALS	飼養動物
8	FARM PRODUCTS	農産品
9	CONDIMENTS & SPICES	調味料・香辛料
10	PURCHASE	購入品
11	PROCESSED FOODS	加工食品
12	DISHES	料理
13	GARBAGE	厨芥
14	STORE WARE	店舗関連
15	FARM TOOL	農具
16	KITCHEN UTENSILS & TOOLS	台所用品
17	FOOD PROCESSING TOOLS	調理器具
18	HOME TOOLS	家庭用品
19	FURNITURE & FIXTURES	家具・什器
20	INFANT USE	乳幼児用品
21	RECREATION TOOLS	遊具
22	HEAVY EQUIPMENT	重機

## 1. 基本的資源 Basic Resources

### ● 水 water

雨季は、雨水をタンクにためそれを家庭用の水に利用する。また、乾季には、井戸が利用される。カナブナバン・バランガイ全体で井戸は5カ所に設置されている。しかし、バランガイの下部単位であるブロック（隣保班に相当）に1カ所の井戸の数にはいたっていない。調査対象となった2戸の農家は、比較的近傍に井戸はある。しかし、雨季には、雨水タンクを利用している。ちなみに井戸までの距離は2戸とも100m前後である。

乾季には、井戸を利用する。ここでは、水汲みは女の仕事と決まっていはいない。夫がしたり、息子たちがしたり、水汲みの労力を分担しあっているという。男が井戸端で洗濯をしたり、水汲む光景がよく見られるのもボホール島の風景である。

## ● 燃料 fuel

低所得層とみられる家庭では、カマドは三つの石を配置した3石型のカマドが利用されていた。それを家庭内に配置し、腰高の位置に置くなどの利用しやすい工夫が施されている。カナブナパンの場合、煉瓦に鉄棒を横に長く敷いた形式のシンプルなカマドを用いているが、煙が室内に残る欠点をもっている。しかし、3石カマドやこの形式のカマドは多様な形態の燃料を利用することができる。特に、ボホールの農村生活では、ココナツ樹の多用途な利用があり、ココナツ殻を炭化させた炭や2mあまりの巨大なココナツの包葉(bract)を乾燥させて使用するなど多量に出るココナツ樹の副産物を中心に燃料として生活に供給してきている。ここでは、タキギ集めやそれによる森林破壊は生じていない。古材や家庭内のゴミなども多様な燃料の一種として使用され、物質利用の好循環を形成している。所得の高いとみられる層では、プロパンガス(LPG)の利用が見られる。それでも旧来のカマドと併用するなどの工夫がされている。

カマド改善は燃料使用のあり方、資源活用、環境との問題、あるいは利用者の健康との問題など多くの分野の問題と関わってくる事項である。近代的な形式の化石燃料をベースとするカマドを単純な評価基準で導入することにとまらぬ、関連する多くの問題を解決しなくてはならないだろう。ここに住民参加による十分な検討と調査研究がなされる必要があり、このような状況を示す資料や考え方を研修を通じて周知させる役目は大きい。生活改善が単なる一方向的なものではなく、自らの生活やそれを通じて生き方などの問題に関わってくるためには、これらの多面的な評価の考え方を研修で示すことができるような体制が必要になる。

## 2. 農林産物 Agro-forestry Products

### ● 穀物 cereals

穀物は、米が主体でインディカ種の白米、赤米がある。また、餅米もよく菓子などに使用される。赤米は、国際稲研究所が改良した坪井の名をもつ品種が知られている。また、碎米の使用や白トウモロコシの米状の代用食<sup>1</sup>がみられ、日常の米使用にはいたっていないことがわかる。

カナブナパンにおける米生産は、天水を利用したものであり、灌漑水田はない。水利のよいところを水田にするが、恒常的に水田を確保できる状態にはない。インフォーマントのアバレ宅の場合、1kmほど離れた場所にわずかに12aほど存在するのみであり、アルベッサ宅では、今年は水がないために雨季がきても水田にできない。対象地域の場合、今年の

<sup>1</sup>ここでは白トウモロコシの粉状のものを「米の代用食」とした。これを米と使い分けているかどうかについては調査で確認をしていない。

表2 生活資源カタログリスト

FOREST RESOURCES & FRUIT TREES

forest					
no	resources name	english	memo	date	informant
76	<i>banghong</i>	bamboo species	used in making "nigo" a basket	8/16/95	
116	<i>bori/botte</i>	a material for mat & rope	material for mat & rope	8/17/95	T.ALBEZA
36	<i>g-melina</i>	gmerina woods		8/11/95	A.APALE
187	<i>ibjog</i>	ibjog plant	materials for broom	8/18/95	A.APALE
191	<i>ibjog</i>	ibjog plant		8/18/95	A.APALE
28	<i>mahogani</i>	mahogany tree	for lumber	8/11/95	A.APALE
58	<i>mahogani</i>	mahogany tree		8/12/95	T.ALBEZA
186	<i>mahogani plantation</i>	mahogany plantation		8/18/95	A.APALE
189	<i>uway</i>	raffan		8/18/95	A.APALE
fruit					
no	resources name	english	memo	date	informant
12	<i>avocado</i>	avocado		8/11/95	A.APALE
65	<i>avocado</i>	avocado tree		8/12/95	T.ALBEZA
34	<i>bayabas</i>	guava seedling	young guava tree	8/11/95	A.APALE
126	<i>bayabas</i>	guavas		8/17/95	T.ALBEZA
192	<i>bayabas</i>	guava plant		8/18/95	A.APALE
125	<i>bugnay</i>	a kind of fruit		8/17/95	T.ALBEZA
19	<i>buwaban</i>	lanzones		8/11/95	A.APALE
55	<i>buwaban</i>	lanzones trees		8/12/95	T.ALBEZA
192	<i>coco-hunter</i>	coco-hunter		8/17/95	T.ALBEZA
14	<i>kaimito</i>	star apple		8/11/95	A.APALE
51	<i>kaimito</i>	star apple		8/12/95	T.ALBEZA
13	<i>kakaw</i>	cacao	material for chocolate	8/11/95	A.APALE
21	<i>kakaw</i>	cacao		8/11/95	A.APALE
41	<i>kakaw</i>	cacao		8/12/95	T.ALBEZA
16	<i>kalamansi</i>	citrus(lemon)		8/11/95	A.APALE
15	<i>kape</i>	coffee plant		8/11/95	A.APALE
42	<i>kape</i>	coffee plant		8/12/95	T.ALBEZA
20	<i>kaenaba</i>	guyabano		8/11/95	A.APALE
18	<i>latundan (saging)</i>	banana/able variety		8/11/95	A.APALE
22	<i>lubi</i>	coconut	<i>niyog</i> -tagalog	8/11/95	A.APALE
24	<i>mangga</i>	mango carabao variety		8/11/95	A.APALE
37	<i>mangga</i>	young mango plant	young mango tree	8/11/95	A.APALE
23	<i>nangka</i>	jackfruit	<i>langka</i> -tagalog	8/11/95	A.APALE
52	<i>nangka</i>	jackfruit		8/12/95	T.ALBEZA
31	<i>papaya</i>	papaya seedling	young papaya tree	8/11/95	A.APALE
112	<i>papaya</i>	papaya		8/17/95	T.ALBEZA
115	<i>papaya (native)</i>	papaya		8/17/95	T.ALBEZA
188	<i>pinaya</i>	pineapple		8/18/95	A.APALE
11	<i>santol</i>	citrus		8/11/95	A.APALE
127	<i>santol</i>	citrus		8/17/95	T.ALBEZA
128	<i>sinaguelas</i>	a kind of fruit		8/17/95	T.ALBEZA
77	<i>tambis</i>	kind of fruit		8/16/95	BUAGAS
184	<i>palwa</i>	dried coco palm bracts	use as fuel	8/18/95	A.APALE
62	<i>tugwayan sa kalabaw</i>	carabao field		8/12/95	T.ALBEZA
100	<i>ohong</i>	mushroom		8/17/95	T.ALBEZA
100	<i>sagisi</i>	nippa palm	materials for roof	8/18/95	A.APALE
17	<i>sayote</i>	achuete	food coloring (seed)	8/11/95	A.APALE
110	<i>sayote</i>	achuete		8/17/95	T.ALBEZA

## AGRICULTURAL CROPS

no	resources name	english	memo	date informant
66	<i>batong</i>	pole beans		8/12/95 T.ALBEZA
118	<i>mami</i>	peanut		8/17/95 T.ALBEZA
27	<i>meis</i>	white corn plant		8/11/95 A.APALE
119	<i>corn lw</i>	white mais		8/17/95 T.ALBEZA
114	<i>pinya</i>	pineapple		8/17/95 T.ALBEZA
29	water melon	water melon		8/11/95 A.APALE
121	<i>kinanpai</i> field	<i>kinanpai</i> field		8/17/95 T.ALBEZA
53	<i>mami ug mais</i>	peanuts intercropped w/corn		8/12/95 T.ALBEZA
35	<i>coubcrop</i>	a kind of green manure	soil recover	8/11/95 A.APALE
32	<i>cassava</i>	cassava		8/11/95 A.APALE
107	<i>ubi kenampay</i>	a kind of root crop		8/17/95 T.ALBEZA
33	<i>ubi kinampay</i>	ubi kinampay variety		8/11/95 A.APALE
108	<i>ubi natural variety</i>	a kind of root crop		8/17/95 T.ALBEZA
25	<i>pechay seedbed</i>	pechay native		8/11/95 A.APALE

## VEGETABLES

no	resources name	english	memo	date informant
111	<i>batong</i>	string beans	Japanese variety	8/17/95 T.ALBEZA
129	<i>kamote</i> field	sweet potato field		8/17/95 T.ALBEZA
120	<i>malunggay</i>	a kind of spices		8/17/95 T.ALBEZA
122	<i>comote</i> leaves	sweet potato leaves		8/17/95 T.ALBEZA
123	<i>kamote</i>	sweet potato		8/17/95 T.ALBEZA
109	<i>kankong</i>	a kind of green vegetable	Chainese vegetable	8/17/95 T.ALBEZA
39	<i>pipino</i>	cucumber		8/12/95 T.ALBEZA
81	<i>pipino</i>	cucumber	good for salad	8/17/95 T.ALBEZA
43	<i>talong</i>	eggplant		8/12/95 T.ALBEZA
54	<i>upo</i>	white squash		8/12/95 T.ALBEZA

## MEDICAL PLANTS

no	resources name	english	memo	date informant
60	<i>bayabas</i>	guava		8/12/95 T.ALBEZA
40	<i>atis</i> leaves	atis leaves		8/12/95 A.APALE
198	<i>boyo</i>	a kind of herbal plant	for toothache (chew it)	8/18/95 A.APALE
199	<i>husikad</i>	a kind of herbal plant	for fever of young children	8/18/95 A.APALE
197	<i>kukogbanog</i>	a kind of herbal plant	for cure stomach ache	8/18/95 A.APALE
117	<i>mohogani</i> seed	mohogany seed	high pressure stomachach	8/17/95 T.ALBEZA
196	<i>sinawsinaw</i>	a kind of herbal plant	for cure kidney trouble	8/18/95 A.APALE
48	<i>tenamycin</i>	medicine for chicken	herbal medicine for chicken	8/12/95 A.APALE
63	<i>luy-a</i>	ginger		8/12/95 T.ALBEZA

## FEEDS

no	resources name	english	memo	date informant
30	<i>balili</i>	carabao grass	also good landscape gardening	8/11/95 A.APALE
113	<i>cogon</i>	a kind of carabao grass	carabao grass	8/17/95 T.ALBEZA

## ORNAMENTALS

no	resources name	english	memo	date informant
201	<i>cattleya</i>	variety of orchid		8/18/95 A.APALE
202	<i>danching lady</i>	variety of orchid	oncidium variety	8/18/95 A.APALE
200	<i>dendrobium</i>	variety of orchid		8/18/95 A.APALE
203	<i>grand orchid</i>	variety of orchid		8/18/95 A.APALE
204	<i>vanda</i>	variety of orchid		8/18/95 A.APALE

### FARM ANIMALS

no	resources name	english	memo	date	informant
80	<i>Tunaan</i>	carabao pool		8/17/95	T. ALBEZA
49	6 day chicks	6 day chicks		8/12/95	T. ALBEZA
194	<i>baka</i>	cow		8/18/95	A. APALE
66	<i>baktin</i>	native pig		8/12/95	T. ALBEZA
8	<i>baktin ug piso</i>	piglet & chick		8/11/95	
130	<i>canding</i>	goat		8/17/95	T. ALBEZA
103	<i>kabay/karabao</i>	water buffalo	land preparation	8/18/95	A. APALE
195	<i>paboy</i>	piglet		8/18/95	A. APALE
57	<i>piso</i>	native chicken		8/12/95	T. ALBEZA
64	<i>pugaran</i>	nest for native chicken		8/12/95	T. ALBEZA

### FARM PRODUCTS

no	resources name	english	memo	date	informant
79	<i>copra</i>	dried coco meat	drying in sunshain	8/17/95	A. APALE
185	<i>lipak sa kawayan</i>	bamboo slats	use for fence in backyard	8/18/95	A. APALE

### CONDIMENTS & SPICES

no	resources name	english	memo	date	informant
50	<i>sayote</i>	achuete	natural good color	8/12/95	A. APALE
124	<i>sayote</i>	achuete	many useful plant	8/17/95	T. ALBEZA
162	condiments	condiments	spices/soy sauree/oil/vinegar	8/18/95	A. APALE
163	<i>panakot</i>	spices		8/18/95	A. APALE
26	<i>huy-a</i>	ginger		8/11/95	A. APALE

### PURCHASE

no	resources name	english	memo	date	informant
164	<i>isda</i>	fish	today's shopping at s-market	8/18/95	A. APALE
165	<i>utaron</i>	vegetable	today's shopping at s-market	8/18/95	A. APALE

### PROCESSED FOODS

no	resources name	english	memo	date	informant
3	<i>cassava chippy</i>	cassava chips		8/11/95	RIC
6	<i>empanadita</i>	pie cake	made of wheat flour	8/11/95	RIC
4	<i>pinicito saging</i>	fried ripe banana		8/11/95	RIC
73	<i>puto</i>	rice cake (steam)		8/16/95	RIC meeting
2	<i>puto bibingca</i>	rice cake(steam)	steam	8/11/95	RIC
1	<i>suman</i>	rice cake	made of glutinous rice	8/11/95	RIC
7	<i>tiktik kalo-kalo</i>	school boy's pack lunch	mode of corn flour	8/11/95	
96	<i>anag</i>	broiled young corn	grilled mais	8/17/95	T. ALBEZA

### DISHES

no	resources name	english	memo	date	informant
132	dried fishes	dried fishes		8/18/95	A. APALE
136	<i>ginomous</i>	salted fish	as viand	8/18/95	A. APALE
106	<i>malonggai soup</i>	luoch dish		8/17/95	T. ALBEZA
135	<i>okra-blanchd</i>	okra		8/18/95	A. APALE
104	<i>panindto</i>	luoch		8/17/95	T. ALBEZA
105	<i>panindto</i>	lunch dish		8/17/95	T. ALBEZA
131	<i>panindto</i>	lunch		8/18/95	A. APALE
133	red rice	red rico		8/18/95	A. APALE
134	<i>talong</i>	eggplant		8/18/95	A. APALE
101	<i>tila-ob</i>	boiled corn with soup		8/17/95	T. ALBEZA

## GARBAGE

no	resources name	english	memo	date	informant
205	<i>basura</i>	kitchen waste (garbage)		8/18/95	A.APALE

## STORE WARE

no	resources name	english	memo	date	informant
67	<i>sarisari store 1</i>	convenience store		8/14/95	
68	<i>sarisari store 2</i>	convenience store		8/14/95	
69	<i>sarisari store 3</i>	convenience store		8/14/95	
70	<i>sarisari store 4</i>	convenience store		8/14/95	
71	<i>sarisari store 5</i>	convenience store		8/14/95	
10	<i>tuba</i>	a coconut wine		8/11/95	

## FARM TOOLS

no	resources name	english	memo	date	informant
180	<i>pugaran</i>	chicken nest		8/18/95	A.APALE
183	<i>pintik</i>	slingshot		8/18/95	A.APALE
177	<i>kalsta</i>	crowbar		8/18/95	A.APALE
179	<i>saral/sanggot</i>	knife/sickle		8/18/95	A.APALE
173	<i>atsa</i>	ax		8/18/95	A.APALE
168	<i>hagdán</i>	ladder	made of bamboo	8/18/95	A.APALE
176	<i>garden fork</i>	garden fork		8/18/95	A.APALE
174	<i>kahig</i>	wooden soil pulverizer		8/18/95	A.APALE
175	<i>sanga</i>	wooden plow		8/18/95	A.APALE
178	<i>sundang/sanggot</i>	hand ax/sickle		8/18/95	A.APALE
61	<i>balsahan</i>	carabao drawn carriage		8/12/95	T.ALBEZA
6	<i>bangay</i>	bolo	variety of use	8/11/95	
91	<i>bukag</i>	rattan basket		8/17/95	T.ALBEZA
9	<i>landahan</i>	copra dryer	use for charcoal oven	8/11/95	
59	<i>landhan</i>	copra dryer		8/12/95	T.ALBEZA
99	<i>pintik</i>	slingshot	hunting birds	8/17/95	T.ALBEZA
45	rain water tank	rain water tank	cemented	8/12/95	T.ALBEZA
182	<i>bakahan</i>	land sled		8/18/95	A.APALE

## KITCHEN UTENCILS & TOOLS

no	resources name	english	memo	date	informant
146	<i>bottle brass</i>	bottle cleaner		8/18/95	A.APALE
151	<i>kalokro</i>	kettle	used to cook rico	8/18/95	A.APALE
150	<i>karahay or kaha</i>	frying pan		8/18/95	A.APALE
142	<i>kutsilyo</i>	kitchen knives		8/18/95	A.APALE
143	<i>lowag</i>	ladles of different sizes		8/18/95	A.APALE
166	<i>nigo</i>	colander	made of bagakai (small bamboo)	8/18/95	A.APALE
149	pot holder	pot holder		8/18/95	A.APALE
161	<i>refregerator</i>	refregerator		8/18/95	A.APALE
152	<i>takuri</i>	tea pot	used to boil water	8/18/95	A.APALE
75	<i>nigo</i>	a rice winnower	made of bamboo	8/16/95	BUAGAS
156	<i>gas tank</i>	LPG tank		8/18/95	A.APALE
181	<i>lusong/alho</i>	motor/pistlo	use to pound rico (palay)	8/18/95	A.APALE
44	<i>gab</i>	scythe		8/12/95	A.APALE
155	<i>dapog or lung-aganan</i>	native stove	made of clay	8/18/95	A.APALE
137	<i>plato</i>	plate		8/18/95	A.APALE
93	<i>dapog</i>	native stove		8/17/95	T.ALBEZA
95	<i>kaldero</i>	kettles		8/17/95	T.ALBEZA
83	<i>lowag (native)</i>	wooden ladle		8/17/95	T.ALBEZA
98	<i>plate/platito</i>	plates/saucer		8/17/95	T.ALBEZA



87	<i>tagyao</i>	water jar	to keep water for the kitchen	8/17/95	T.ALBENZA
97	<i>tasaplato</i>	cups/saucer		8/17/95	T.ALBENZA
88	<i>termos</i>	thermos bottle		8/17/95	T.ALBENZA
145	<i>pitcher</i>	water container	used in the dining table	8/18/95	A.APALE
160	<i>tangka sa tubig</i>	water jar		8/18/95	A.APALE
159	<i>termos</i>	thermo bottle	hot water container	8/18/95	A.APALE

### FOOD PROCESSING TOOLS

no	resources name	english	memo	date	informant
141	<i>banggutan</i>	handy grater		8/18/95	A.APALE
148	<i>burniyo</i>	chocolate stirrer	dissolving chocolate drink	8/18/95	A.APALE
140	<i>dukdukan</i>	spice grinder		8/18/95	A.APALE
147	<i>imbora/saan</i>	funnel/strainer		8/18/95	A.APALE
46	<i>kudkuran</i>	coconut grater		8/12/95	A.APALE
171	<i>kudkuran</i>	coconut grater		8/18/95	A.APALE
144	<i>kuskus</i>	young coconut scraper		8/18/95	A.APALE
47	<i>lusong ug awbo</i>	mortar & pestle	grind for powdering rice	8/12/95	A.APALE
139	<i>tadtaran</i>	chopping board		8/18/95	A.APALE
153	<i>gas stove</i>	L.P gas stove		8/18/95	A.APALE
85	<i>batila/butneo</i>	stirrer	for tabliya(chocolate drink)	8/17/95	T.ALBENZA
86	<i>dokdukan</i>	spice grinder		8/17/95	T.ALBENZA
92	<i>kudkuran</i>	coconut grater		8/17/95	T.ALBENZA
84	<i>kutsilyo</i>	knives		8/17/95	T.ALBENZA
82	<i>lowag</i>	ladle of different sizes	iron	8/17/95	T.ALBENZA

### HOME TOOLS

no	resources name	english	memo	date	informant
169	<i>dust pan</i>	dustpan		8/18/95	A.APALE
170	<i>silhihig</i>	broom	coco midlib as broom	8/18/95	A.APALE
154	<i>sugnod</i>	fire woods		8/18/95	A.APALE
172	<i>martilyo</i>	hammer		8/18/95	A.APALE
91	<i>lampatilya</i>	a kerosene lamp		8/17/95	T.ALBENZA
89	<i>silhihig</i>	broom	coconut midlibs	8/17/95	T.ALBENZA
90	<i>silhihig</i>	broom	made of ibjok	8/17/95	T.ALBENZA
158	<i>container</i>	water container	use in fetching water	8/18/95	A.APALE
157	<i>tangka sa tubig</i>	water tank		8/18/95	A.APALE

### FURNITURE & FIXTURES

no	resources name	english	memo	date	informant
167	<i>silya</i>	chair	made of morabi	8/18/95	A.APALE

### INFANT USE

no	resources name	english	memo	date	informant
138	<i>babyron</i>	milk bottle		8/18/95	A.APALE
72	dried milk	powder milk		8/14/95	A.APALE
74	<i>duyanan or duyan</i>	cradle		8/14/95	A.APALE

### RECREATION TOOLS

no	resources name	english	memo	date	informant
38	<i>billiard</i>	billiard	entertainment for men	8/11/95	
103	<i>hinuktan(manok)</i>	fighting cock		8/17/95	T.ALBENZA

### HEAVY EQUIPMENT

no	resources name	english	memo	date	informant
78	<i>pison</i>	road roller		8/16/95	

米生産そのものが可能かどうか天候に依存したものになっている。米の代用はトウモロコシである。今回の調査で食したが、味はかなり米に近いものであった。

餅米を利用した豊富な菓子類がある。総称してプト (puto) といわれる。色や形状から日本のユベシに近似した puto kutsinta はポピュラーな菓子の一つである。餅米粉に砂糖やココナッツ果実などを加えて練り、蒸したもので、室外で食べれるようにバナナの葉にくるんだまま蒸したものもある。日本人の食味にもあう。フィエスタという祭りのときの食べ物で、今日では、ミリエンダというおやつとしてよく供される。

#### ● 塊茎作物 rootcrops

塊茎作物は、サトイモの類 (gabi)、ヤマイモの類 (ubi)、キャッサバ、サツマイモなどがある。季節的な作物であり、乾季の12月頃収穫されるものが多い。加工作物としてはウビの一種である紫ウビ (ubi-kenampay) があるが、これは独特の香りのあるきれいな紫色の芋で、アイスクリームや高級なソフトクッキーの材料としてマニラでは珍重される。特に、紫ウビは、UNDP、UNIFEM がアロールルート (arrowroot、ウコンカタクリ) と並び、女性の所得創出のプログラムの品目として注目した作物である。これらの作物を利用した多種類の菓子類があり、米の粉を使用したものを加えるとその種類は豊富である。多くは年に2回行われる、フィエスタと呼ばれる土地の祭りの時に作られる。マニラ市内の高級菓子店にもこの種の菓子類が見られる。

#### ● 豆類 beans

豆類は、サヤインゲン (string beans) やムンビーン (mungbeans)<sup>3</sup> と呼ばれる豆、ピーナッツが見られる。ササゲの類もあるが、ポピュラーではない。bush beans という豆も聞かれたが、どのようなものかは不明である。ピーナッツは、換金用として栽培される。カナブナパンでは、トウモロコシとの間作が行われていた。

#### ● 野菜類 vegetables

野菜類は、種類も少なくホワイトスクワッシュ (white squash、カボチャの一種)、ナス (eggplant)、東南アジア一帯で栽培されているカンコン (kangkong)、ニンジン (carrot)、トマト (tomato)、キュウリ (cucumber)、カボチャ (pumpkin)、日本のピーマンの種類 (sweet pepper) などが見られた。果物の種類の豊富さに比べて、野菜の種類数の少なさがあげられる。サヤエンドウやサヤインゲンも料理に見られたが、農家の家庭菜園には季節がらか、見ることはできなかった。カボチャも都市のスーパー等で見られるものの農家の菜園では見ることはできなかった。

<sup>3</sup> 緑豆の一種。

## ● 果 実 fruits

果実の豊富さはいうまでもない。ココナツ(coconut)を代表に、バナナ(banana)、アボカド(avocado)、グアバ(guava)、ランソネス(lanzones)、スターアップル(starapple)、フィリピンの代表的な柑橘類でレモンと称されるカラマンシ(kalamansi)、グヤバノ(guyabano)、マンゴ(mango)、ジャックフルーツ(jackfruit)、パパイヤ(papaya)、パインアップル(pineapple)、やはり柑橘類のサントール(santol, citorus)、スイカ(water melon)、やはり柑橘類のタングラオ(tanglao)など豊富である。調査地では見られなかったマンゴスチンやランブタンもタグピララン市などで売られていた。

## ● ココナツの多用途利用 multi-uses of coconuts

生活の知恵は、一つの作物を多用途に使用することである。ココナツは大きく以下の部分に分けてみるとわかりやすい。まず果実の部分である。この若い実(buko)は、ジュースとして、また、葉子の材料や野菜として使われる。この実を使用したブコパイ(bukopie)は、パイ皮で包んで焼いた菓子である。古い実は、ランドハン(landhan)と呼ばれるココナツ乾燥ガマで焼かれてコブラ(copra)にする。コブラはココナツオイルや石鹸の材料となる。また、ココナツは、ナタデココやビネガーキャンディーなどの材料にもされる。もちろん豊富な料理の材料にもなり、牛乳に変わって多くの菓子の材料になる。豚の飼料にもされる部分がある。木の幹は、建材になり、葉は、壁の材料であり、屋根にも葺かれる。高い樹高を利用して家の周りに植樹して熱帯の直射日光を避ける働きをする。実際、農家に入ると薄暗さはあるものの涼しい快適な環境を作っている。若い葉は山仕事や畑仕事にもっていく蒸し米をくるむ弁当入れ(ボソ poso と呼ばれる)になる。新しい葉の先に切り込みを入れてそこに竹筒をさすと、そこに水分が貯まり、発酵してヤシ酒(tuba)が作られる。葉の葉脈は、楊枝に、籐の穂先にも使われる。ヤシの殻は炭に、飾りものに、ボタンに、楽器のウクレレの胴に使われる。側芽は、刻んで熱湯で煎じると化痰止めの医薬品になる<sup>4</sup>。

ココナツは単に果実を採るための作物ではない。ナタデココのような利用の仕方には向かない作物なのである。

## ● 換金作物 cashcrops

ここでは、女性がコントロールしている換金作物の代表的なものを見てみよう。カナブナパンの農家の家屋の周囲には、多くのコーヒー coffee の木とカカオ cacao の木が植え込まれている。ちょっとした現金が必要なときに女性がこれを市場にもっていき、換金される。このような換金作物が女性の生活の補助として利活用されている。これらは、女性た

<sup>4</sup> 国際協力事業団、1994、「農村生活改善のための女性の技術向上基礎調査報告書(フィリピン)」、pp.95-97を参照。

ちのへそくりみたいなもので、現金が必要になったときに、公共市場 public market に持参し、換金する作物でもある。カカオは、果実のまま出荷するのではなく、果実部分を捨ててその種子を乾燥させて煎り、それをつぶして練ったチョコレートをつくる。バナナ大の棒状に練り上げてそれをスライスしてビニールに積めて市場に持っていく。

#### ● 香辛料 spice

タイなどの東南アジアの他の国々と比べて香辛料を多く使用していないが、島国であるために海産物が多くあり、食卓に上る。食肉は豚が珍重され、年2回のフィエスタでは大事に育てた豚が料理になる。魚は、干し魚、ギノモウス (ginomous)<sup>5</sup> などがあるが、干し魚を煮たりするときには、香辛料を使用する。代表的な香辛料としてマロンガイ (malunggay) がある。また、ショウガ (luy-a 英語で ginger) もよく使用される香辛料である。キュウリやシンカマス (singkamas)<sup>6</sup> やナスなど野菜のスープにトウガラシ (sili、英語で hot pepper) などと一緒に頻繁に使われる。カナバナパンの農家でも屋敷地内にかかなりの面積のショウガ畑が設けられていた。バリリキッド (balilikid) もフィリピンの家庭ではなくてはならない重要な香辛料で、特に香りに特徴がある。干し魚を煮たりするときによく使われる。

香辛料は、家庭菜園でも目立つほど大量には植えられていない。しかし、単調な食生活に変化をつけ、よりよい料理を作るには欠かせない資源である。暮らしの質を変えていくには、鍵になる資源である。

#### ● 薬草 Medicinal Plants

薬草の類は、非常に多い。病気にかかりやすい乳幼児をもつと庭先に急激に増えてくる。調査の対象となったアバレ宅の屋敷地内には、孫が一時的に同居し始めたため子供の熱冷ましなどの薬草など数種類が用意されるようになった。アバレ宅の庭には、busikad と呼ばれる独特な形をした草が植えられていた。この薬草は子供の発熱に効くものとして珍重され、花、葉、根といずれも使用される。その近くに sinaw sinaw という腎臓の病気に効く薬草もあった。boyo は、歯痛の薬草でこれを噛んでその汁を歯や歯茎に与える。kukogbanog は、急な腹痛があったときに火であぶり、それを腹部にのせて腹部を暖める。マホガニーの種は脱水症状の時に用いたり、胃腸薬、高血圧の治療薬として使用する。果物の athis (釈迦頭) の葉も薬草として用いる。herba、つまりスペイン語で草を意味する言葉がピサヤ語になった薬草はヨモギの一種で、中耳炎のときに主に用いられ、また、発熱したときに身体に液汁を塗って用いたりする万能薬のような使われ方をする。tog-tog という薬草は乳幼児の夜泣きに煎じて飲ませるものである。

<sup>5</sup> ピサヤ語。タガログ語ではバゴーン bagoong。

<sup>6</sup> 塊茎作物 root crops で yam 芋の一種。

薬草に関する知識は、アバレがカナブナバンのヘルスワーカーとして訓練を受けており、その知識として熟知していることもあるが、一般的にここで暮らしを担当する女性なら普通に持っている知識だともいう。実際に、隣人のアルベッサに教えられるままに資源調査を実施した過程で多くの薬草類を収集できているし、アバレの息子にも多くの薬草を指摘された。薬草を知ることは、ボホール島で暮らす上では重要な生活知識であることを物語っている。香辛料同様に量的には少ないが、農村生活上では鍵になる資源である。

#### ● 林産物 Woods

カナブナバンは、平坦部の少ない農山村である。また、散居の形態をとるために土地利用については個別の生活単位が存在する。これらの土地利用については、土地利用のところで著述する。個々の農家では、住居の近くに小さな雑木林を所有している。ここではマホガニー mahogany、ジュメリナ g-merina、モラベ molave といった建築材、家具材用の樹木を常に用意している。計画性のある農家では、これらの樹木の成長に併せて家屋の修理や建築、家具調度の導入などが行われている。アバレ宅は、その典型例であり、円卓と椅子のセット、サイドボードなどの家具調度をモラベという樹木でつくっている。タグピラン市の近傍の村に家具調度を製造している店があり、そこに自宅の雑木林で育ててきたモラベを持参してつくるのである。

現在、アバレ宅では家屋の側壁の改装をしている。自宅の雑木林のマホガニーを切り倒して1日100ペソの代金を払って大工を雇っている。日本の家普請などの慣行は見られない。農村生活の計画はお金でなくとも成り立つことを示している。

このような雑木林は資源の宝庫である。籐 (ラタン) uway や家具や建材などの用途の広いイピルイピル ipil-ipil、籠など多用途に使える豊富な竹の類 bamboo 等豊富である。

### 3. 生活用具 Tools for Living

#### ● 調理用具 Cooking Utensils

次に、農家生活で使用されている調理用具にはどんなものがあるか見ていこう。まず、カマド (stove) である。カマドは台所にしつらえられている。腰の高さに置かれて使いやすい工夫がなされている。低所得階層の農家でもカマドの高さは腰の高さに位置づけられている。基本資源のところで述べたようにカマドは多様な燃料が使用できる形式がLPGのカマドが導入されても、従来の形式が併存している。LPGの高い燃料費の問題があるためにすべて移行できない背景とも考えられる。しかしながら、従来型のカマドによる多様な燃料の使用可能性が高いことは、評価して置かなくてはならない項目である。

次に、水の貯水や利用のための道具である。雨季には、天水を利用するための雨水タンク (water tank) の利用度が高まる。台所には陶器製の水差し (water jar) が置かれ、調理活

動に直接的に使う貯蔵機器となっている。また、井戸などから運ぶときに使用されるコンテナ（water container）が用意されている。共同井戸は、対象農家からは100m前後にあり、乾季はこのコンテナの利用が多くなる。台所には、魔法瓶（thermo bottle）があり、湯を貯蔵することも考えられている。

鍋の類（kettle and pot）は、バラエティは少ないものの数種類置かれている。面白いのは、従来のカマドで使用する鍋釜の類とLPGのガス台で使用する鍋釜が区別されていることである。

台所には包丁とまな板（knife and chopping board）も見られる。まな板はプラスチック製が導入されている。ナイフも研磨され、使いやすいようにメンテナンスされていた。杓子の類（kinds of laddles）はココナツ殻で作ったものもステンレス製のものも併用されていた。ココナツの特殊な加工作業をするための特定の道具（coconut grater and scraper）もあり、ザルやこし器（colander and strainer）は、伝統的なものと工業用製品とが併存していた。

#### ● 食器など Tableware

屋外で食事をするときは、バナナの葉やヤシの葉で作られたポソ（poso）など自然の中にそのまま捨ててもゴミとはならないものが用いられ、まだ、プラスチック製のラップやアルミホイルの使用は見られていない。食卓で使用される食器は、陶器製の皿やカップ（plate and cup）である。スプーンとフォークが通常でナイフが加わることもあるが、日常ではスプーンとフォークをうまく使用している。特にスプーンはナイフの代用に使用するなど一々持ち替えなくてもよいという特徴がある。

#### ● 清掃用具と洗濯道具 Cleaning Equipment & Laundry

箒（boom）やちりとり（dustpan）などはイブジョグ（ibjog）とよばれるヤシの繊維質を使ったものであるが、工業的に作られたものである。洗濯には洗濯板（washing board）が用いられている。石鹸を主体に、落ちないものには合成洗剤（soap and detergent）が用いられてきている。量的には少ないものの住居外に排出されたときの対策が必要になってくるだろう。これらの過程において、住民参加型で自主的に対策が立てられるようにもっていくことが、農業生産環境を維持していく基本である。

#### 4. 農作業用具 Tools for Farming

農作業用具は、水牛（karabaobaw）を利用した農作業用具（Plow and Hoe）が用意されている。水牛がひいて使用する大きな木製の犁（sanga）が高床の下にしまわれていた。kahigというやはり木製の整地用具も水牛にひかせて使用する。いずれも畑地用の用具である。水牛がひく用具として竹製の轎（そり、balsahan、英語で sleigh）がある。もちろん雪上

ではなく、ヤシの下、一面に植えられたカラバオグラス(carabao grass)の上を主にひきずる用具で、公設市場のコブラの出荷などによく利用される運搬用具である。いずれも水牛を利用した道具である。水の少ないところで水牛を飼うためにヤシ園の下にトゥナーン(tunaan)と呼ばれる水たまり(carabao pool)が掘られており、水牛が日永そこで水浴びをする空間となっている。ヤシの葉は直射日光を遮り、水牛や牛、豚、鶏などの家畜、家禽が飼えるような適切な環境を作り出している。農機具は伝統的なものが多く、伝統的な根茎作物栽培の農作業具としての堀棒も使われている。

その他には、斧(atsaと呼ばれる)、ヤシの固い殻を割るときによく使われている独特の傾斜のある柄をもった小刀(bugay)がある。仕事ができるという証のように腰に鞘をベルト状にしてつり、これをもって歩く小学生もいる。鎌の類(surdangまたは sangotという)も農作業によく使われている。日本で子供たちの遊び道具としてあったパチンコ(slingshot)がいずれの家庭にも置かれているが、これはピンティック(pintic)と呼ばれ、鶏を殺すときや野鳥を捕獲するときに使用する。石とピンティックが窓際に置かれ、窓から庭の鶏を撃つのである。

農家では、ヤシの古い実を焼いてコブラ(copra)をつくるが、そのカマドをランダハン(landahan)という。ヤシ園の一面に横穴を掘り、上に石を組んで燻すような作業をする。コブラをとった残りの殻(coco shell)は炭化させ、炭として台所のカマドで使用する。

農機具の貸し借りは見られない。どうも農用具の貸借をはじめとして共同作業を好まない体質がうかがえる。

### 3-2-2-3 「生活資源カタログ」調査からみた土地利用の形態

#### 1. 土地利用のイメージ

カナブナバンで実施した資源カタログ調査を通じてカナブナバンの人びとの土地利用観を描いてみよう。

カナブナバンでは、散居の形態をとっており、個々の住居の独立性が高い。それ故に、個々の住居を中心とするひとまとまりの土地利用のイメージが存在する。住居を中心に、便宜上、以下の5つの土地利用区分を想定した。

1. 家庭菜園 (庭とその周囲の空間) Home Garden
2. ココナッツ園 Coconuts Plantation
3. 畑地 Upland Fields
4. 水田 Paddy Fields
5. 雑木林 Woods and Forest

#### (1) 家庭菜園 Home Garden

家庭菜園というのは、住居と塀で囲われた庭とその周囲の主に生活のために使用される資源を配した空間を意味している。住居のまわりに多くの丈の高いココナツ樹を適度に配置し、ココナツ樹の他には、バナナやマンゴ、パパイヤ、グヤバノなど中位の高さのある果樹が植えられている。また、日常使われる薬草など、特に乳幼児のいる家では、夜泣きや発熱に対処するための薬草がすぐ利用できるように家庭菜園の中に配置されている。ここで特徴があるのは、コーヒーやカカオが庭先に植えられていることである。ココナツの木は、基礎的資源の燃料の項で述べたように多くの燃料を提供する資源でもある。対象となった2戸の家では顕著ではなかったが、住宅地のココナツなどの樹高の高い木がつくる鬱蒼としたシェードの密な陰で gabi と称される在来種のサトイモが植えられている。

住宅内部は熱帯にもかかわらず薄暗く、温度もかなりコントロールされた快適な生活環境空間をつくりだしている。

## (2) ココナツ園 Coconuts Plantation

住居の周りの植え方とは異なり、適当な間隔(3~4 m)をあけてココナツが植えられている。住居と10m程度の間隔をおいてひろがる。ココナツ園ではココナツの葉によるシェードが、住居よりも疎であり、この下に素掘りの水牛の水浴び場があり、在来種の鶏の巣などが置かれている。ココナツの下地にはカラバオグラスという飼料用の草が植え込まれている。牛や豚、山羊、鶏など家禽が飼われるのもこのココナツ園の特徴である。樹高の低いグアバやバナナ、マンゴ、パパイヤ、サントールといった果樹もこの下にある。女性がちょっとした現金を得るときに役に立つカカオやコーヒーもこのココナツ園にある。

住居からそんなに離れていない距離に、土盛りがあり、これは、ココナツの古い実からとるココナツ油をとるためのコブラをつくるカマドである。このカマドでは、コブラばかりではなく、ココナツ殻を焼いて炭をつくったりしている。ココナツの太い葉の葉脈 (palwa といわれる) を焼いて炭をつくる作業もこの空間で行われる。カラバオグラスで覆われたココナツ園の下地では、ソリ (balsahan または bakahan) が運搬道具として使われる。

## (3) 畑地 upland field

畑地は、居住地区から離れている。アバレ宅では500~700mほど離れたところに位置している。ボホール島特産のウビ(ubi)ならびに紫ウビ(ubi kenampay)、トウモロコシ、サツマイモ、キュウリ、ウボ(upo)といわれる瓜(squash)の類、トウガラシやピーマン、ナスなどが炎天下で作られる作物である。ウビとトウモロコシの間作やトウモロコシと南京豆の間作が見られるのも畑地の特徴である。



#### (4) 水 田 paddy field

調査の対象となったボホール島のコレリア町カナブナバン集落は、山間集落である。標高は高くはないが、ゆるやかな緩斜面の多い丘陵地域となっている。ここでの水利がよいところでは、天水を利用した水田をつくっている。今年は天候が不順で調査対象となった2戸とも水田をつくっていない。アバレ宅は山間の水利のよいところであるが、自宅からは2kmほど離れた地域にある。水利さえよければ水田をつくりたいという。

#### (5) 雑木林 forest

2戸とも自宅の近くに雑木林をもっている。マホガニーやジュムリナという樹木を植えている。ラタンもあり、多くの資源をこの雑木林に依存している。家具に適した木、住居の建材に適した木、燃木に用いる木など用途に応じてさまざまな資源が用意されている。これらの木は適当に植えられてはいないようだ。今回の調査では確認できなかったが、必要な樹木などの資源を使用するために計画に近い考え方で資源を育成しているようだ。樹木の生育年数にあわせて住居をリフォームしたり、新しい家具をつくらせたりしている。

さまざまな薬草や少なくともいい香辛料、ちょっとした道具を作るための木の枝や幹などを手軽に利用するため、雑木林を比較的住居の近くに配する工夫がみられる。

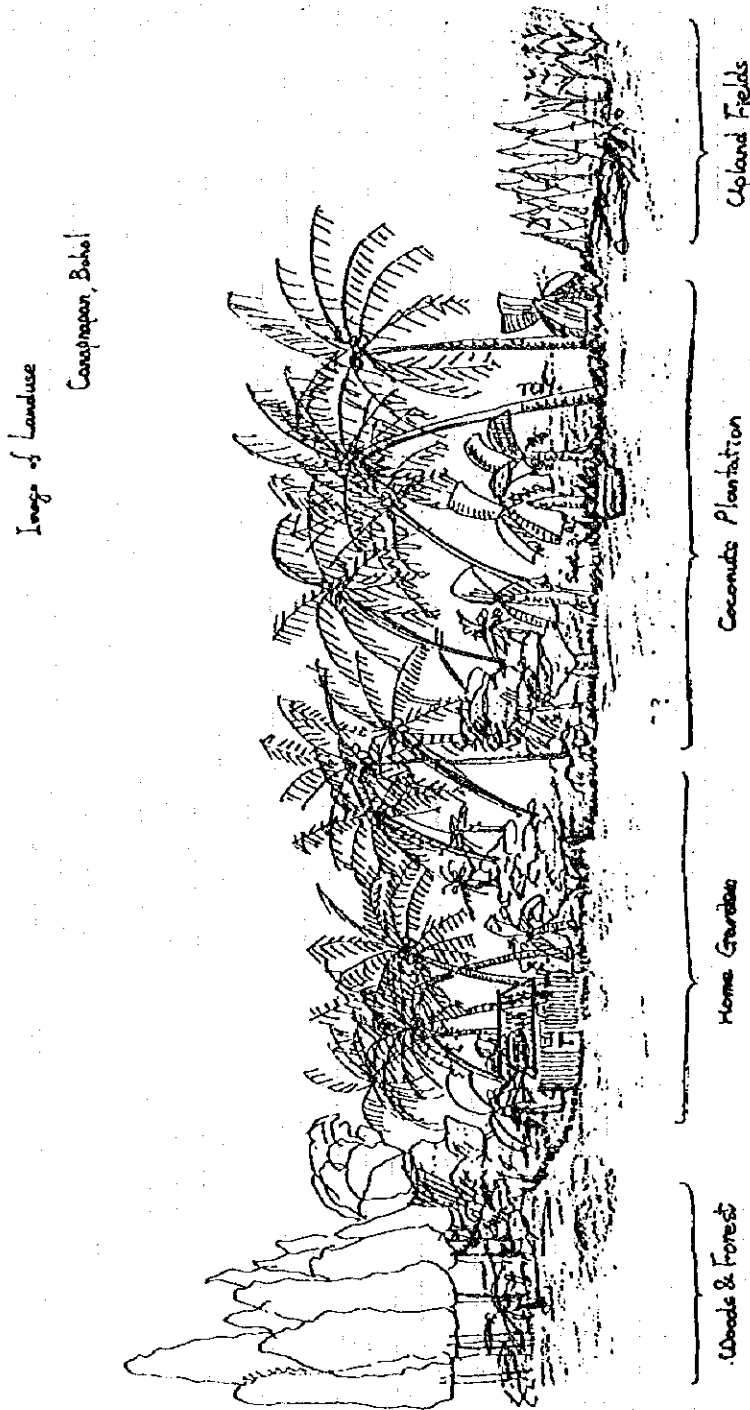
## 2. 土地利用にみる生活観

土地利用の仕方を見ると、どのような資源をどのように価値づけ、組み合わせていくかが概略判明する。そして単なる食用資源としてだけ利用するのではなく、快適に、豊かな暮らしをしようという意識が見えてくる。人工的な生態系とでもいえるような動植物資源の組合せは、資源の配置によって資源をより増やそうとしてきた結果であり、熱帯の直射日光を避け、より多くのシェードを木々の組合せによって作り出し、少しでも居住空間を涼しく保つ工夫がなされている。その工夫によってさらに多くの資源を作り出すことにも成功している。

資源カタログ調査では、有用な資源ばかりでなく道具やゴミまでもリストアップされた。これらのカタログを見るとプラスチック製品が急激に増加してきていることがわかる。これらの大部分は分解されずに地表に残ってしまうことになる。合成洗剤や衛生的なトイレなど暮らしに便利な製品が入り出すと一挙に水の使用量は増加する。多くの場合、これらの基盤的なことを考慮せずに都市で作られた製品を導入することになる。このような環境の中で持続的に農林業を続けていくことを前提に農村生活を改善していくには、自らの置かれている暮らしの特質を相互に理解し合ってどのような対策をたてる

のか、住民が決めて行かなくてはならない事項が山積みされてくる。そのときにこのような土地利用の分析は有効になる。

図1 土地利用イメージ



#### 3-2-2-4 生活を支えるローカル・マーケット

コレリア町では週1回、月曜日に公営市場(public market)が開催される。図2は、CORELLA PUBLIC MARKETの出店配置図を示したものである。道路沿いには、常設店舗の役割をするサリサリ・ストアと簡易なレストランを兼ねた店が位置しゲートを入れて右手には、市の日に食事ができるCARENDORIAがある。出店場は畜肉、鮮魚、乾物(さかな)、塩造魚、などが整然と並んでいる。しかし、肉類の出店はない。鶏の出荷場もあるが、ここも利用されていなかった。バスケット・コートの上では穀類を販売するものが少し見られ、中央の出店場は衣服や履き物、工具や化粧品など工業的製品がならぶ。

つまり、わずかに野菜類を販売するものがあるが、現金で手に入れようとする多くのものが、この地域ではないものであり、それらが所狭しと並んでいる。自家菜園とこのローカルマーケットで売られているものの総体が日常の暮らしを支えるものとみてよいであろう。肉類はほとんど口にしないが、鮮魚や干物、塩漬けの魚や塩辛の類などが非常に好まれている。スキムミルクなどの粉ミルクがわずかに認められるが、牛乳や乳製品は見あたらない。このような状況での牛乳促進運動は現実的ではない。



### 3-2-3 農村組織

農村地域の組織には、行政司法機能を持つもの、経済志向をもつ機能集団、地域公共活動を担うグループなど多様なものがある。調査村落で観察された組織の概要を一例として以下に示す。下記の表の1及び2は村落の行政及び司法機能を担う組織であり、構成員は選挙によって選ばれる。3～5までの組織は主に農業生産など経済的な活動に関連して組織されたものであり、男性のみがメンバー登録をしている。6及び7の組織はボランティアな性格の強い社会組織であり、女性の参加が顕著である。これらの農村組織の構成員は往々にして重複しており、リーダーも同じ人物であることが多い。定例会合も行われてはいるが、日常的な活動はさほど活発でないという印象である。前述の通り、今回の調査村は農地改革プログラムの対象となっていないため、村落農地改革委員会は組織されていない。

表8：調査対象村落にみられる組織

	組織	構成員数 (うち女性数)	主な活動
1	Barangay Council バラングイ議会	11 (2)	開発計画づくり 各集落 (purok) から議員1名を選出
2	Lupong Tagapayapa ルボン・タガパヤパ	15 (2)	村落内部の紛争調停 (不定期会合)
3	Samayan Nayong サマハン・ナヨン	34 (0)	もともとは相互扶助機構 現在では信用組合として登録、活動
4	Farmers' Association 農民組織	26 (0)	月例会合、自治体農業事務所との連絡 全国農業・水産業委員会からの融資受入
5	Small Coconut Farmers' Association 小規模ココナツ農民組織	40 (0)	月例会合 フィリピンココナツ庁による肥料の無料配布受入
6	Sangguniang Kabataan 青年クラブ	15 (10)	スポーツ、レクリエーション活動 村内清掃ボランティア 定期・不定期会合
7	Rural Improvement Club 農村生活改善クラブ	35 (35)	定期会合 頼母子 コレリア多目的協同組合の活動に参加 共同菓子づくり

なお、コレリア町では、協同組合が6、農村生活改善クラブが9、農民組織が8、4Hクラブが2、それぞれ組織され活動している。以下はボホール州全体における1990年時点での農村組織の実態である。

表9：種類別組織・構成員数

組織種別	グループ数	構成員数
農民組織	216	6,872
漁民組織	44	1,478
農村生活改善クラブ(RIC)	226	6,425
4Hクラブ	81	2,236

組合に関しては、協同組合への公的融資のチャンネルがフィリピン土地銀行 (Land Bank of the Philippines: LBP) に一本化されたことに伴い、協同組合開発庁 (Cooperatives Development Authority: CDA) に登録していることが融資受け取りの条件となったため、現在では殆どの組合が登録されている。農民組織の多くは規模が小さく、幾つかの農民組織が集まって一つの組合を形成することが多いといわれている。

また、ボホールにも地域で活動する NGO が多数あり、それらの NGO によって組織される村落レベルのグループもある。NGO の地域連合体としては、ボホール NGO 連合 (Bohol Alliance of Non-Government Organizations: BANGON) が、1990年7月に設立されており、現在19団体が加盟している。BANGON はフィリピンの NGO の全国組織である CODE-NGO や、ビサヤ地域ネットワークである VISNET の構成団体にもなっており、これまでに USAID やオーストラリア政府のフィリピン NGO 支援プログラム、カナダ政府のフィリピン人的資源開発計画などから支援を受け、プロジェクトを実施している。BANGON は、ATI とも研修活動に関する連携を保ち、協力関係にある (加盟団体の概要については表10を参照のこと)。

表10：ボホール NGO 連合加盟団体

	NGO名	活動領域
1	Bohol Environmental Concerns and Development Foundation (BECDF)	海洋環境、社会林業、調査研究
2	Bohol Economic and Social Trust Foundation, Inc. (BEST)	奨学金、コミュニティ開発、教育・研修
3	Bohol Foundation for the Deaf and Disabled (BFDD)	救援、教育・研修、保健・栄養
4	Bol-anon Foundation, Inc. (BFI)	生計プロジェクト、コミュニティ開発、社会金融、アクトリズ
5	Bohol Health Foundation, Inc. (BHFI)	保健・衛生、生計プロジェクト、組織化、水資源・土壌保全
6	Bohol Integrated Development Foundation, Inc. (BIDEF)	教育・研修、組織化、社会金融、開発と女性、持続的農業・漁業・海洋資源開発、環境開発、水と衛生
7	FCRB-Livelihood Foundation, Inc. (FCRB-LFI)	コミュニティ開発、組合開発、開発と女性、教育・研修、運営・財務相談、保健栄養サービス、農業・漁業・食料生産、小規模企業開発、環境保全・動植物保護、社会金融、総合地域開発、農村金融仲介
8	Ilaw International Center, Inc. (IIC)	組織化、コミュニティ開発、調査研究、教育・研修、生計プロジェクト、水と衛生
9	Lihok Filipina Foundation, Inc. (LFFI)	組織化、女性、教育・研修、食糧生産、技術
10	People's Center for Services and Development (PCSD)	組織化、教育・研修、食糧生産
11	Participatory Research, Organization of Communities and Education towards Struggle for Self-Reliance (PROCESS)	組織化、コミュニティ開発、法的支援、調査研究、開発と女性
12	Diocesan Service Commission - Social Action Center (SAC)	教育・研修、組織化、生計プロジェクト、救援・復興、調査研究・出版
13	Small Island Development Foundation, Inc. (SIDF)	漁業、教育、組織化、調査研究
14	Sigma Phi Foundation, Inc. (SPF)	教育・研修、小規模企業、協同組合、コミュニティ開発
15	United Coconut Planters Bank Foundation, Inc. (UCPBF)	農業、コミュニティ開発、教育・研修、調査研究、技術
16	World Vision International	コミュニティ開発、生計プロジェクト、組合開発、教育・組織化、社会金融、保健・栄養、環境配慮
17	Visayas Cooperative Development Center (VICTO)	組合開発、コンサルタント業務、研修、融資支援
18	Feed the Children, Philippines (FTCP)	組織化、融資支援、研修
19	Bohol Resource Management Development Foundation (BRMDF)	組織化、研修、環境

### 3-3 ATIの研修

フィリピン農業省農業研修局(Agricultural Training Institute)は、農民を含む農業関係者を直接対象とした研修を通じて、新しい施策や農業生産動向などをふまえた技術向上、生活向上をめざす機関である。農民に限らず、漁民もその研修の対象としている。組織形態などについては、前報告でふれているので、具体的な研修活動について概観する。ATIの役割としては、フィリピン全体のマクロ計画(GPEP: GRAIN PRODUCTION ENHANCEMENT PROGRAM、穀物生産促進計画など)の研修を通じた実現と徹底が大きい。特に、農業経営の起業化などが大きなテーマとなっている。

#### 3-3-1 ATI本部(Central Office: ATI C.O.)

ATI C.O.は、1)計画モニタリング評価部(PLANNING, MONITORING & EVALUATION DIV.)、2)専門技術者サービス部(SPECIALIST SERVICE DIV.)、3)普及情報部(EXTENSION COMMUNICATION DIV.)、4)総務部(ADMINISTRATIVE DIV.)の4つの部があり、実際の研修は本部では実施していない。研修活動は、本部の傘下にある4の中央研修センター(NTC; NATIONAL TRAINING CENTER)、13の地方研修センター(RTC; REGIONAL TRAINING CENTER)、17の農民研修センター(FTC; FARMER'S TRAINING CENTER)、7の地方漁民研修センター(REGIONAL FISHERMEN'S TRAINING CENTER)と国際養豚研修センター(INTERNATIONAL TRAINING CENTER ON PIG HUSBANDRY)の合計42の研修センターが実際の研修を行う。本部は全体の研修企画と運営管理を主とする。

実際の研修は、FTC、RTCが提出する研修企画を本部が認可するシステムとなっている。本部は、各地の研修センターのプログラムの内容の可否やモニタリング、評価などを行い、それにそった予算措置をはかる。しかしながら、研修に必要な研究や試験は他の機関と連携し、独自の試験研究の予算は極めて厳しい状況にある。研修に必要なパンフレットやリーフレットの編集・発行やビデオ等の教材を通じて研修資料作成が行われている。なお、このビデオ教材製作についてJICAから専門家が派遣されており、教材作成の技術指導がなされている。

#### ● テキスト教材作成にみる研修内容

ATIが作成している研修に使用するテキスト、あるいはリーフレット、パンフレットの類は、かなりの点数になると思われる。しかしながら、今回の調査において入手したテキスト教材は以下の表3にまとめられる。19のリーフレットのうち菜園のつくりかたに関するもの1種類、個々の作物の栽培に関するもの4種類、鶏の飼い方に関するもの1種類、漁法に関するもの1種類で農作業や漁業生産活動に関するものは7種類となっている。残りの12種類は料理方法が1、食材の保存方法が4、食品加工に関するもの7種類となっている。これら



の研修用のリーフレットをみる限り、農業生産よりも農家生活に関わる事項が多くなっており、ATIの活動は農業生産を主体としているものの、研修の対象となる農民などの関心は生活的視点に強くあることが示されている。

表3 Samples for ATI's Leaflets of Training

code	Title	English	Language	Category
100	The Bio-Intensive Garden	Bio garden	English	Land use
101	SITAW	Long Beans	Ilocano	Planting
101	KAMOTE	Sweet potato	Tagalog	Planting
101	BALINGHOY	Cassava	Ilocano	Planting
101	KAMOTIG	Sweet potato	Ilocano	Planting
121	PAG-AALAGA NG MANOK SA LIKOD BAKURAN	Backyard chicken	Tagalog	Poultry
151	ARTIFICIAL CORAL REEF	Artificial coral reef	English	Fishing
201	SPISY BOLINAOG	Fish dish	Tagalog	Cooking
211	NGA PARAAN UPANG MAIWASAN ANG PANINILAW NG BIGAS	Yellow Rice	Tagalog	Preservation
211	DE LATA A BANGUIS	Fish sarden	Ilocano	Preservation
211	FISH PRESERVATION & CONVENIENCE FISH PREPARATION	Fish preservation	English	Preservation
211	PAGLUTO UG SITCHARON	Pork	Tagalog	Preservation
221	PINA-ASOIHAN NGA ISDA	Snake fish	Tagalog	Processing
221	NGA DAPAT TANDAAN SA PAGHIMAY NG MAIS	Corn	Tagalog	Processing
221	POLBORON NGA ISDA	Fish powder	Tagalog	Processing
221	SORISO NGA ISDA	Fish meal	Tagalog	Processing
221	CURITA RINGS	Squide rings	Ilocano	Processing
221	SHRIMP KROEOECK	Shrimp cracker	Tagalog	Processing
221	AGARAMID TI GULAMAN MANIPUD ITI RUOT TI BAYBAY	Seawig	Ilocano	Processing

Offered by Specialist Services Division of ATI, 1995

また、リーフレット作成に用いられる言語は3種類あり、英語、ピリピーノと称されるタガログ (Tagalog) 語及びイロカノ (Ilocano) 語というマニラのあるルソン島北部の部族語で作られている。リーフレットは、4カ所にある中央研修所などが中心になって作られるようであり、今回の調査対象地域であるボホール島を含む地域の言語であるセブアノ (Cebuano) 語のリーフレットやパンフレットもボホールの農民研修センターでは見られた。

「有機集約農園 the Bio-Intensive Garden」についてのリーフレットを参考に掲載した。この研修用のリーフレットは、対象地域の農村生活の向上をめざしたもので、台所から出る厨芥を利用したコンポストの作成や健康を重視した栄養の見直し、農業を使用しない農作業、資本集約的ではなく労働集約的な特質などが説明されている。住居の近くに農園をおくことなどが説明されている。他にも農産物や海産物の食卓での利用や保存方法、そのための食品加工技術などのパンフレットやリーフレットが用意されていることに注目したい。

ATIの研修の主要なものに関しては、これらの資料からも何に重点が置かれているか理解できる。ただ、これらのリーフレットの通りの研修では地域の実情と乖離する事項も存在している。コンポストなどの肥料にできるほどの台所ゴミが出るのだろうか。多くの残飯類は豚の餌などにまわるし、鶏卵の殻をつかった肥料についても、それほどの鶏卵の消費が日常生活にあるのか疑問である。

いずれにしても、これらのリーフレットの研修の内容は、PCM ワークショップでも指摘されたが、実際の地域の農民の暮らしとは大きなギャップがある。

● ビデオ教材作成にみる研修内容

平成6年から JICA の協力で研修に使用する「農業教育番組制作」の専門家が派遣されている。研修に視聴覚教材を活用するために機材が供与されて、多くの教材が作られている。具体的な視聴覚教材の使い方については、研修センターの項で述べることにし、ビデオ教材の制作協力状況を略述する<sup>1</sup>。

要請された協力内容は次の通り。

- ① 普及研修における視聴覚教材の（効果的な）使用方法の開発。
- ② ビデオ教材とテレビ番組制作における専門技術の提供。
- ③ 視聴覚機器を最大限に活用するための新しい技術と技能の提供。

この視聴覚教材を制作するセクションは、普及情報部 Extension Communication Div. の中に Audio-Visual Production Section である。情報普及部では、この課と情報研究開発課 Communication Research and Developing Section、印刷課 Printing Section と文書配布課 Documentation and Circulation Section がある。

教材制作は3つの部門に分かれており、現在計画されているビデオ制作は次の通りである。

FARMING SYSTEM DEVELOPMENT

1	GPEP	1993-1998
2	FARM SAFETY	1959-2000
3	ON-THE-SPOT COURSES (GRAPES PRODUCTION)	1992-1995
4	URARTIP (RICE TECHNO DEMO)	1987-2000
5	LEIRP (LOW EXTERNAL INPUT RICE PROD.)	1994-2000
6	COOP CONSORTIUM (ATI, Corp. Development Authority, Land Bank of Philippine)	1993-1998
7	FARM MECHANIZATION (Syllabus will be done by 2nd Quarter)	1992-1998
8	SFR (SMALL FARM RESERVOIR)	1994-2000
9	BIOGAS TECHNOLOGY (KLDP)	1995-1998
10	MODEL: A SYSTEM APPROACH EXT. METHODS (JICA) (GENERALIST/SPECIALIST TYPE OF EXT SUPT)	1995-1996
11	KCCDP (KEY COMMERCIAL CROP DEVT. PROG.) - Cold storage - White Potato Production Training - Mango Production Training - Cashew Production Training	1995-1998
12	BIG (BIO-INTENSIVE GARDENING) - Vegetable Gardening/ Organic Farming	1992-1998
13	IPM (Rice and Corn) (Vegetable)	1987-2000 1995-2000
14	CDEP	1993-1998

<sup>1</sup> 高階康博, 1995, 「業務実施計画書」を参考にした。

### FARM HOME RESOURCES MANAGEMENT

1	Integrating population concerns into Agricultural Extension activities.	1992-1995
2	Food production at the household level	1994-1995
3	Rootcrop production, processing and marketing of rootcrops by rural women W/UNIFEM ASSISTANCE ATI REGULAR PROGRAM	1987-2000
4	Promotion plan on location specific for production and processing of root crops.	
5	Leadership trainings and skills trainings on food food trades and entrepreneurial development.	1992-2000
6	Modelling on adaptive technology transfer and dissemination. ATI REGULAR PROGRAM	1987-2000
7	RIC - FHRM Institutional Development	1994-
8	Gender and development (Focal Point)	1992-2000
9	Community development and livelihood education tie-up project with Roosevelt College Foundation.	1994-

### FARM YOUTH DEVELOPMENT

1	FARM YOUTH DEVT. PROGRAM (FYDP)	1989-1995
	4H PROGRAM	1952-1995
2	KABATAAN 2000	1989-1995
3	EXCHANGE PROG. FOR FARM YOUTHS PATP	1974-1996
	(PATP, IFYE, ASY) IFYE Y.S.	1952-1994
	IFYE ASIA	1963-1994
	ASY	1993-1995
4	EXTENSION MODELLING	1992-1994
5	PREPARING RURAL YOUTH FOR BETTER FUTURE IN AGRICULTURE COORDINATED BY THE ASEAN RURAL YOUTH DEVELOPMENT CENTER (ARYDEC)	1990-1995

出典) YASUHIRO TAKASHINA, 1995, WORK PLAN FOR JICA EXPERT, EDUCATIONAL VIDEO PROGRAM PRODUCTION pp.25-29

以上のようなビデオ教材の制作計画が立てられている。ATIの主要な研修プログラムと見ていただろう。

### 3-3-2 地域社会レベルの農業研修

具体的な研修をするのは、先にも述べた42の研修センター(Training Center)である。ここでは主にボホール島にある農民研修センター(Bohol Agricultural Training Institute Farmers Training Center; ATI-FTC-BOHOL)の研修状況のみをみる。担当する管内は、ボホール島全域にわたり、ボホール州のタグピラン市をはじめとするこの島の市・町をカバーしている。

#### ● 研修の対象

ATI-FTCの研修の対象となるのは、普及を担当する州政府、Municipalityに配置されている農業担当官(Municipality Agricultural Officer; MAO)、農業技術者(Agricultural Technician; AT)のみならず直接に農民グループのリーダー、農民グループ員、特に農村改善クラブ(Rural Development Club)や農民組合<sup>2</sup>など各層におよぶ。

#### ● 研修コースに取り上げられている課題

どのように研修コースが組まれているのか具体的にみてみよう。次の表は、ATI-FTC-BOHOLの1995年に提供している研修コースである。年間36のコースが組まれている。扱われているテーマを拾い出していくと、収穫後技術(Post Harvest Technology)、農作業の安全性(Farm Safty)、協同組合活動(Cooperative Activity)、計画立案実行方法(Program Planning & Implementation)、ジェンダーと開発(Gender and Development)、協同組合参加前研修(Pre-Membership Education)、人材開発(Human Resource Development)、家畜家禽生産(Livestock & Poultry Production)、稲作生産技術(Rice Production Technology)、小規模管理灌漑と参加プロジェクト(Communal Irrigation & Participatory Project)、マンゴ・切り花生産(Mango & Cutflower Production)、協同組合簿記管理研修(Cooperative Bookkeeping Training)、協同組合運営管理研修(Cooperative Operating & Management Training)、協同組合リーダーシップ研修(Cooperative Leadership Training)、種子生産者向け研修(Training for Seed Grower)、MAOのための組織開発、種苗管理技術(Training on Nursery Management)、石鹸製作(Soap Making)、種子生産と品質管理(Seed Production & Certification)、家畜の飼い方(Livestock Training)、種子生産と加工(Seed Production & Processing)、自己信用(Self-Reliance)などが扱われている。

農業生産技術よりも農民組合組織化経営、農民組織化、収穫後の加工方法などが目に付く。ATIスタッフが指摘する通り、研修の際に具体的に研修員に提示する実験農場やデモンストラーション農場が不十分であることも関係してくる。ATI-FTC-Boholの場合、研修機関とはいえ研修会場確保すら不自由な状況である。本部で制作しているビデオ教材にしても十分に活用できる体制にはなっていない。

<sup>2</sup> ボホール島の農民組合は生産組合というよりも生活物資を共同購入したり、販売したりする生協的な色彩が強い組織である。RICのMunicipalityレベルの連合体で1つのFarmers' Cooperativeを組織している例もある。

# 1995 ATI-FTC-BOHOL COURSE OFFERING

NO.	COURSE TITLE	DATE	NO./TYPE OF FAX	AREA COVERAGE	COOPERATING AGENCYS/ANS
1	Kasakusan/ Training as strategy	12-12-94	30 Extension workers	Provincewide	DA-7,ATI & APC
2	Integration of Post Harvest Technology into Agricultural Extension Ser.	1-11-12	43 Extension workers	-do-	ATI-HAPMIRE
3	Tungro & Farm Safety Seminar	1-26-27	50 ATs	-do-	ATI
4	Cooperative Enhancement Course	2-3-4	50 Coop.Members	Bugsoc, S.Bullone	ATI & BMFC
5	Program Planning & Implementation Course	2-15-17	50 LGUs,HGOs,POs	Catubian	ATI-LGU, Catugbian
6	Gender & Development	2-23-24	30 ATs	Provincewide	ATI
7	Pre-Membership Education Seminar	2-27-28	25 Coop. Officers E Members	Aburquerque	ATI-ACMC
8	IGP Training	3-1	30 PNP Officers	Provincewide	ATI-PNP
9	Human Resource Development	3-9-11	30 PAO staff	-do-	ATI
10	Cooperative Pre-Membership Education Seminar	3-15-16	16 Seed Growers	-do-	ATI-DA-7
11	-do-	3-16	35 Govt. Employee	Mabini	ATI-SRMPC
12	-do-	3-28-29	32 RW's members	Garcia-Hernandez	ATI-XWS,RWSA
13	Livestock & Poultry Production	3-28-29	32 4-Hers	Provincewide	ATI
14	Rice Production Technology Updates with LEIRP	5-16-18	35 GPEP Ben.	Garcia-Hernandez	ATI-LGU
15	VCIPP-Visayas Communal Irrigation & Participatory Project	5-23-25	40 FLs	Valencia	ATI-DA-7-NIA
16	-do-	5-30/6-2	40 FLs	Clarin	ATI-DA-7-NIA
17	Mango & Cuflower Production	5-30-31	35 FLs	Siquijor Prov.	ATI
18	Cooperative Bookkeeping Training	6-6-8	35 Coop.Bk'pers Officers	FLs Provincewide	ATI
19	Cooperative Operation & Management Training	6-19-23	35 Coop. Officers FLs	-do-	ATI
20	Cooperative Leadership Training	7-8-7	35 -do-	-do-	ATI
21	Training For Seed Growers	7-29-21	30 Seed Growers	-do-	ATI
22	Organizational Development for MAOs	7-26-28	35 MAOs	-do-	ATI
23	Training on Nursery Management	8-8-10	35 FLs	-do-	ATI
24	Cooperative Pre-Membership Education Seminar	8-15-16	100 incoming mem.	Buнавista	ATI-LGU
25	-do-	8-17-18	40 -do-	Catugbian	ATI-NGOs
26	Rice Production Technology Updates with LEIRP	8-22-24	35 Farmer Leaders	District II Mun.	ATI
27	Soap Making	8-30-31	35 Rural Women	San Miguel	ATI
28	Rice Production Technology Updates with LEIRP	9-5-7	35 Farmer Leaders	District I Mun.	ATI
29	Seed Production & Certification	9-12-15	30 Seed Inspectors	Provincewide	ATI
30	Training on Livestock	9-19-21	35 FLs	-do-	ATI
31	Training on Seed Production & Processing	9-25-28	35 Seed Growers	-do-	ATI
32	Training on Livestock & Production	10-10-12	35 FLs	-do-	ATI
33	Training on Self-Reliance	10-17-19	35 FLs	Non-GPEP Mun.	ATI
34	Training on Seed Production & Seed Quality Control	10-23-26	35 SCFS	Provincewide	ATI
35	Training on PHT Equipment Manufacturers	11-8-10	35 Coops	-do-	ATI
36	Training on Self-Reliance	11-21-23	35 Coops	Non-GPEP Mun.	ATI

## ● 研修の具体的進め方—「ジェンダーと開発」研修を例に—

つぎに研修方法について具体的な研修コースにしたがって見てみる。多くの研修は数日間の宿泊を要する研修となっている。そのために研修員が宿泊する宿舎や給食などのサービスが付随している。また、職員や講師を対象となる地域に出張して研修する方式もとられている。

次の資料は、本年2月23～24日に行われた「ジェンダーと開発」の研修コースに関するものである。研修の対象は資料にある通り、農業普及を担当する普及員(AT)で、ボホール州にある48の町(Municipality)の普及員のうち30名を対象にしている。タグビララン市ダオ地区のALNOLDUS聖公会ハウスを会場として借用し、ATI-FTC-Boholが主催した研修である。研修は、ATI-FTC-Boholが単独で実施するもの以外に農業省のⅧ区事務所やボホール農業振興センター(APC)<sup>3</sup>、地方行政組織(LGU<sup>4</sup>)との連携により実施されるものがある。NGO組織との連携もある。

扱われるテーマを先に見てきたが、ここに例として挙げた「ジェンダーと開発」等のように極めて今日的なテーマも取り上げられている。特に、今年、中国北京で行われた「世界女性会議」の開催なども関係しているのだろう。

### (1) 主旨と目的

よりよい生活をめざして女性の役割は大きいことを述べ、女性の活動に対する知識と理解を徹底し、これらの意識を喚起・促進するためにこのセミナーは用意されている。女性の役割は、家庭生活、家族関係、地域社会、農業開発の全般におよびジェンダー配慮の理解が開発についてのプロジェクトならびにプログラムに見いだされなくてはならず、それは男女両性の参加を通じてフィリピン国全般の問題であるとしている。

セミナーでは研修目標を特に次の3点においている。

- ① 農業におけるジェンダー問題を討議検討する
- ② 作物生産、畜産、漁労などの開発計画全般に女性の積極的な参加が見いだされる
- ③ 両性の社会貢献を認識するために、新しい権利が女性にとって明確になる

### (2) 研修の過程

研修期間は2日間で、研修の方法は、講義とそれに付随する討議ならびにワークショップ形式で行われる。また、ビデオ教材をふんだんに使用して理解を深める。これらを通じて問題点を整理していく方法がとられている。

研修は、第1日目の午前7時30分に研修員としての登録が始まり、宿舎の部屋割りがない

<sup>3</sup> BOHOL AGRICULTURAL PROMOTION CENTER ボホール農業振興センターは、ボホールの農業振興のために作られた地域試験場の支場であり、試験研究、普及、研修を総合的に実施する機関で、過去にはJICAのプロジェクトも実施されてきた。現在、個別派遣専門家が1名派遣されている。

<sup>4</sup> Local Governmental Unitの略。

**Seminar on**

**GENDER AND DEVELOPMENT**

Participants : 30 Ats  
 Date : FEBRUARY 23-24, 1995  
 Venue : ARNOLDUS RETREAT HOUSE  
 Dao District, Tagbilaran City  
 Sponsor : AGRICULTURAL TRAINING INSTITUTE - FARMERS TRAINING CENTER (ATI-FTC)  
 C/O BAI BUILDING, NEW CAPITOL SITE,  
 TAGBILARAN CITY, BOHOL, PHILIPPINES

**RATIONALE:**

Development is the sustained capacity to achieve a better life. The main actors in attaining this goal are the men and women through out the world. Women are essential contributors to the social and economic well-being of their families and work earns less prestige and remuneration and is often excluded from National economic indicators. By making visible the extent and importance of women's work, this process can contribute directly to consciousness-raising and empowerment, hence this seminar-workshop.

**OBJECTIVES:**

Generally this seminar-workshop aims to provide a better knowledge and understandings on the role of women play in the their homes, family, community and for Agricultural Development. An understanding of gender concerns will provide a profound basis in identifying development programs and projects that can be both participated by men and women through out the country.

Specifically at the end of the seminar the participants should be able to:

- 1) discuss about gender issues in agriculture;
- 2) identify and plan projects and activities in various sectors such as crops, livestock and fisheries and integrate the participation of women in these activities;
- 3) see women clearly in a "new" light thus giving them the recognitions which they really deserve in their vital contributions to society.

**PARTICIPANTS:**

Forty-eight (48) Agricultural Technicians (Ats) from the 48 municipalities of Bohol.

**METHODOLOGIES:**

1. Lecture-discussion/workshop
2. Video showing
3. Guide questions

**SCHEDULE OF ACTIVITIES**

**DAY 1 - FEBRUARY 23, 1995**

7:30 A.M.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Arrival of Participants</li> <li>- Registration</li> <li>- Billeting</li> </ul>	
9:30 A.M.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Opening Program</li> </ul>	
PART I	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Invocation</li> <li>- Awit/ Awit sa Bohol</li> <li>- Welcome and Opening Remarks</li> </ul>	<p>FTC Staff                  FTC Staff                  Ms. Carolyn May O. Daquio TCS-II,                  ATI-FTC-Bohol</p>
PART II	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduction of Participants, Guests, Staff</li> <li>- Message</li> </ul>	<p>FTC Staff                  Mr. Aniano F. Bondal PAO-Bohol</p>
10:30 - 12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Levelling of Expectation</li> <li>- Host Team Formation/ Functions</li> <li>- House Rules</li> <li>- Course Overview</li> <li>- Video Sowing</li> </ul>	<p>FTC Staff                  FTC Staff                  FTC Staff                  FTC Staff</p>

12:00 - 1:00 P.M.	<b>LUNCH BREAK</b>	
1:00 - 3:00	Gender Sensitivity	Ms. Carolyn May O. Daquio
	• Women Situationer	
	• Video on Situation Analysis of Women in the Philippines	
	• Diagnostic Evaluation	
	• The State of the World Women	
3:15 - 3:30	<b>NUTRI BREAK</b>	
3:30 - 5:00	- Sex and Gender	FTC Staff
	- Roles, Traits, Attributes of Men & Women	DAO-Cebu
5:00 - 6:30	- Gender & Culture	
	- Influencing Factors Affecting One's Being	
	- Travelogue	
	- Personal Charting	
6:30 - 7:30	<b>DINNER</b>	
7:30 - 9:00 P.M.	- Video Showing - The Battered Wife	
	- Manifestations of Gender Biases	DAO-Cebu

**DAY 2 - FEBRUARY 24, 1995**

7:00 - 7:45	<b>BREAK FAST</b>	
7:45 - 8:00	• Getting Started	
8:00 - 9:15	• Manifestations of Gender Biases (cont'd)	DAO-Ceb
9:15 - 10:15	- "Clearing the Field"	
10:15 - 10:30	- <b>NUTRI BREAK</b>	
10:30 - 11:30	- Integrating Gender Concerns	
	1) Development Planning	
	- What is development?	
	- Why plan?	
11:30 - 12:15	2) The Concern for Gender	
	- Basic Principles	
	- Sources of Enequities/ Inequities	
	- Role of Government	
12:15 - 1:15	<b>LUNCH BREAK</b>	
1:15 - 2:15	- Gender Roles Framework (GRF)	
2:15 - 3:15	- The Triple Roles Framework (TRF)	
3:15 - 3:30	<b>B R E A K</b>	
3:30 - 4:30	- <b>CLOSING PROGRAM</b>	
4:30	<b>HOME SWEET HOME</b>	



される。研修そのものは午前9時30分からで、開会式典が2部に分かれて実施される。祈祷(Invocation(2))、ボホール州歌の斉唱、ATI-FTC所長の歓迎のことば、参加者・来賓の紹介、ボホール州農業官(PAO)のメッセージが第1部である。

第2部は、研修がどのように行われるかのガイダンスで、宿舍使用のルールなども含み、コース全体の解説がなされる。

午前10時30分より本格的な研修が開始される。午前中の1時間30分はまずビデオ教材の使用である。12時から1時間の昼食休憩がある。これらの昼食は、すべてATI側が予算の中で用意するシステムである。

午後1時からボホール農民研修センター所長、Carolyn M. O. Daquio氏の講義である。内容は、ジェンダー感覚、女性のおかれている状況、ビデオを通じて見たフィリピン女性の状況分析、診断と評価、世界の女性のおかれている状況などである。3時15分から15分間の休憩を挟んで、性とジェンダー、男女のFTCスタッフの役割、特質と属性についての講義が続く。

隣接するセブ島にはこの地域全体の農業省の事務所がありその職員による講義が用意されている。この講義は夕食を挟んで午後9時まで続けられる。内容は、ジェンダーと文化、個々の人びとがなすことの重要性、紀行談義、体験談と続く。夕食後にはいったん「よりよき妻」というビデオ教材を見てジェンダーバイアスの生じやすい事例を検証するプログラムになっている。

2日目は、午前7時の朝食からはじまり、8時から具体的な研修が開始される。このプログラムでは、昨晚に続き、ジェンダーバイアスの問題がセブの農業省事務所員によって講義される。9時15分から1時間の会場の清掃があり、15分間のミリエンダという軽食の時間が用意されている。その後、ジェンダー配慮を活動にどのように組み込んでいくかをテーマとして、開発計画の立て方、ジェンダー配慮の基本的原則、不平等・非平等の根源、政府行政機関の役割についての講義が行われる。

午後は、ジェンダー役割のフレームワーク、フレームワークの3局面の役割についての講義がなされ、3時の休憩時間の後、閉会式が行われて4時30分に終了するという濃密な研修内容になっている。

ここで使用した資料は、ボホール農民研修センターから本部に提出された企画書であり、実際の進行とは若干異なると思われるが、スタッフによればそれほど大きな差異はないとのことである。

### 3-3-3 研修における問題点の整理

ATIの研修活動を研修に関わる教材と実際の研修を実施しているボホールFTCの研修例